



施設野菜の規模拡大のため、障害者の就労者数を増やし、作業の増加や高度化に対応できる作業アプリの開発導入による分業体制の整備や、高付加価値化による障害者の工賃を向上を図る。

基本情報

- 所在地：茨城県水戸市
- 団体名：有限会社 照沼農園
- 選定表彰：優良農福連携賞（2021年茨城県共同受発注センター）、ノウフク・アワード2022フレッシュ賞
- 主力商品：水稲（20ha）、アスパラガス、水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜
- 取得認証等：－



取組の概要

- 水田20haで水稲栽培、農業ハウス3棟でアスパラガス、農業ハウス8棟で水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜を栽培。
- 福祉事業所（就労継続支援B型）と連携し利用者にベビーリーフの計量パック詰め作業、リーフレタス等の袋詰め作業、水耕パネルの清掃、水耕野菜の定植作業に携わる。
- 1週間に障害者一人当たり1日6時間、週4日の24時間、作業を依頼。
- 農福連携の野菜は地元の飲食店、スーパー、直売所で販売。



野菜計量と袋詰め



試野菜のパック詰め作業



夏場の高温時の作業改善
ハウス内の作業を暑さ対策で外のテントで

体制図

有限会社照沼農園

施設外就労

障害福祉サービス事業所 たけのこ

社会福祉法人 清香会 育心園

取組の成果

- 支払い工賃が600円（時間）に向上し、茨城県の最低賃金300円（時間）の2倍となった。
- 作業方法やパッケージングを工夫し、作業時間が取組始めた当初の3分の1になった。
- 作業アプリを開発したことでパック詰めグラム数が〇×とモニターで表記されるため計量ミスがなくなった。

所在地 ▶ 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町2724-1

連絡先 ▶ TEL:029-248-6288 E-mail:mailto:g23youhei@gmail.com

【取組のプロセス】

平成16年

営農を開始

令和元年

障害者の農業体験会を実施

12名の施設外就労を受け入れ

令和3年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業に採択

連携する福祉事業所が2団体になり16名の受け入れ

今後の展望

きっかけ

人手不足によりパート雇用を確保できない状況の際に、茨城県共同受発注センターからの紹介で障害者の体験会を開催。

取組の工夫

- 野菜パック詰め作業では、作業方法及びパッケージの変更等、障害者が作業をしやすい方法を考案。
- 地元IT企業と連携し、作業マニュアル、軽量を明確にできるアプリを開発したり、パック作業部屋にエアコンを設置し暑さ対策を実施するなど、作業環境の整備を図る。

作業アプリの開発導入により作業効率の向上

- 地元のIT会社と連携し作業の見える化をするためのアプリの開発を行い導入。
- パック詰め作業時の計量のミスをなくするため、作業数量をデータ化し計量器に○×で表記されるようなシステムとして、作業効率の向上を図った。

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

- 令和3年度農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業を活用し、作業マニュアルの作成や先進地視察研修を実施し農福連携の強化を図る。
- 作業効率の向上により工賃が600円（時間）まで向上した。

GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す

- 障害者が働きやすい分業体制の整備や作業マニュアルの構築を進める。
- 生産物の高付加価値化による障害者の工賃を向上を図るため、GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す。



計量作業の説明



作業方法を工夫した野菜パック詰め

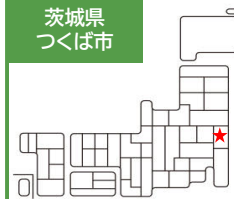


開発してアプリ 褒め褒めシステム

就労継続支援B型事業所として3箇所の農場を経営し、有機野菜の生産・体験農場、稲作・竹細工、平飼い自然養鶏など、幅広い取組を実施し、農業のフィールドを生かして障害者の働きがいを深めている。

福祉事業所

茨城県
つくば市



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H23年

取得認証等:認定農業者(H23・R7更新)

主な選定表彰:人間力大賞グランプリ農林水産大臣賞
TYOP(世界の傑出した若者10人) 等

概要

主力商品

(農作物)季節の野菜セットの販売
(加工品)人参ジュース、お弁当

特徴的な取組

有機栽培・平飼い自然養鶏

体制図

NPO法人ユアフィールドつくば
↓
ごきげんファーム(就労継続支援B型3事業所)
ひだまりベース(グループホーム)
ブルーフロッグ(放課後等デイサービス)
ハイク(訪問看護ステーション)

住所:茨城県つくば市大角豆2168-1

TEL: 029-875-5660

Mail:support@yf-tsukuba.com

URL: https://yf-tsukuba.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H23年

議員インターシップに参加し、農業と福祉双方の問題を知り、自分事を感じたことから、この問題に関わりたいと考え、「ごきげんファーム」を設立。

取組

人を耕す

- 農福連携技術支援者研修の研修農場としての受け入れや、企業への研修の受け入れ等を積極的に実施し、農福連携の取組を発信。
- 地域にとって本当に価値ある農業のフィールドを作っていくことで、一緒に活動する人を増やしていく。

地域を耕す

- 地域の約15haの荒廃農地を活用し、毎日約100名の障害者が、水稻(5.5ha)、野菜(8ha)の栽培、養鶏(1,300羽、0.7ha)などに従事。
- 見学会、イベントの開催、体験農園の設置等、近隣住民と交流できる企画を多数実施。
- 意識的に近隣地域への販売を増やし、地域との繋がりが深まっていくように定期的に夏祭りや収穫祭などのイベントを開催。

未来を耕す

- お弁当の販売、カフェの開設等を予定しており、不登校の子供たちの居場所づくりや、子ども食堂、マルシェ、障害者家族向けのサロンの開催などに取り組み、地域住民が様々な形で関われる場にしていく。

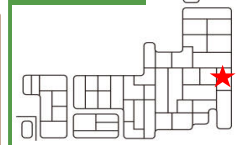
成果

平均工賃月額	障害者数	売上高	来場者数
25,000円(R2) →27,500円(R6)	約100人(R2) →100人(R6)	250万円/月(R2) →350万円/月(R6)	800人/年(R2) →1,200人/年(R6)

- 道具や作業行程を工夫し、様々な障害のある利用者が作業しやすい環境づくりに取り組むことで、障害のある利用者も主体的に関わることができ、就職につながる利用者も多い。
- 茨城県の平均工賃月額を上回る工賃を実現。
- 年間来場者数は800人(R2)から約1,200人(R6)に増加し、農福連携の取組を広く発信している。農地面積は平成23年度の1.2haから拡大。

JX金属株式会社の特例子会社。多様な方々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、自前型・援農型両方の農福連携を実施。

特例子会社

茨城県
水戸市

基本情報

設立:R4年 / 農福連携取組開始:R5年

主な選定表彰:令和7年度障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞

きっかけ

R5年

JX金属の特例子会社として、農福連携によって、障害者がやりがいをもって働ける環境を構築できると判断し、事業を開始。

人を耕す

- 人事制度では、能力・成果を昇給や賞与に反映する仕組みを構築。やりがい作りのため、全員リーダー制や日々の作業に希望制を導入。
- 雇用障害者のうち1名は、正社員にステップアップし、職場のリーダーとして活躍。
- 生産した農作物を、各地に工場を持つJX金属の従業員への販売や工場の食堂で活用するほか、農業体験・社員研修の場として活用し、グループ全体の障害者理解に貢献。

取組

地域を耕す

- JX金属、Jリーグクラブ水戸ホーリーホック、日本農業実践学園の3団体で連携し「農業×福祉×スポーツ」の地域活性化に向けた農福連携+αの仕組みを構築。
- 日本農業実践学園の指導を受け、伝統的な技術と有機農法手法を継承するほか、同学園及び水戸ホーリーホックの農事業の繁忙期に援農を実施。
- 従業員家族イベントでの農作業体験、近隣保育園児の農業体験の受入れ・食育等を実施。

未来を耕す

- 水戸ホーリーホック障害者サッカーチーム所属員の中で就労希望があれば内原ファームで採用するといった相互の人的交流の仕組みを構築。
- 内原ファームの障害者が販売会等に参加し、生産した農作物を自ら販売することで社会との繋がりを感じるきっかけとなり、地域の障害者理解にも貢献。

概要

主力商品
(農作物)野菜

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図

JX金属株式会社

↓
JX金属コーポレートサービス株式会社
(JX金属株式会社の特例子会社)
※内原ファームはJX金属コーポレートサービス株式会社の組織
※茨城県水戸市内原にある農業専門学校日本農業実践学園内に事務所・圃場・農業機械を借用し事業を実施

住所:茨城県水戸市内原町1463-48

TEL:070-1563-1136

Mail:uchiharafarm@jx-nmm.com

URL:https://www.jx-corp.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

平均賃金月額

12万円(R5)
→13.1万円(R6)
※+年2回の賞与

障害者雇用数

4人(R5)
→8人(R6)

売上高

104万円(R5)
→180万円(R6)

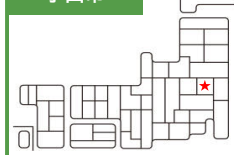
農地面積

70a(R5)
→70a(R6)

- 農作業に関連する資格取得を希望する者には会社で支援し、刈払機取扱作業従事者講習6名受講、大型特殊免許3名取得。
- 加工や農業以外の仕事を作ることで、多くのやりがい・モチベーションの創出。内原ファームの障害者が、仕事をする中で自信を取り戻し、障害者手帳返納。
- 障害のある家族をもつグループ従業員から就業希望の相談を受けるなど、従業員の家族からも頼られる事業へ発展。

地元の重要な産業であった養蚕業の再興に取り組み、ノウフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、レストランでの接客等個性に応じた働く場の確保、農産品の付加価値化で工賃の向上を実現。

福祉事業所

栃木県
小山市

きっかけ

H27年

地元の伝統産業の再興するため養蚕業に参入。

人を耕す

- 多機能型事業所として、知的、身体障害者等の31名で、桑畑、落花生、野菜畑の管理、収穫に取り組む。栃木県農業アドバイザーから指導を受けた職員が農作業を、作業マニュアル等を使用し利用者にわかりやすく指導している。

地域を耕す

- 7,000坪の桑農場で桑の栽培を行い、6次産業化事業認定、ノウフクJASの認定を受け、桑の関連食品等の生産に取組、商品は地元の小売店やインターネット通販等で販売。
- 併設しているレストランに、無農薬で栽培したビーツ、玉ねぎ、小松菜等供給するとともに、レストランの売店で、地元の方が生産した野菜を利用者が販売し、地域との連携を図る。

未来を耕す

- 桑茶などの桑関連食品の開発販路拡大を図り、さらなる桑農園の規模拡大で地域の荒廃農地を桑農園化しに地域産業の再興を図る。

基本情報

設立:H10年 / 農福連携取組開始:H27年

取得認証等:6次産業化認定事業者(H27)
ノウフクJAS(R2)

取組

主力商品

(農作物)万願寺唐辛子、ビーツ、かぼちゃ、たまねぎ等
(加工品)桑茶、桑ジュース、パスタ、菓子類、ジャム等

特徴的な取組

6次産業化、輸出

概要

体制図

社会福祉法人パステル

↓
多機能型事業所CSWおとめ(農業班、パウダー班、パン工房部、レストラン“みゆぜ・どばすてる”)
多機能型事業所フロンティアおやま(畜産事業班)

住所:栃木県小山市乙女625-2

TEL:0285-39-6088

Mail:info@fukushi-pastel.jp

URL:http://fukushi-pastel.jp

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

成果

平均工賃月額

34,000円(R2)
→48,000円(R6)

障害者数

30人(R2)
→31人(R6)

農地面積

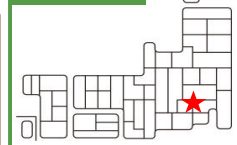
0.66ha(R2)
→2.31ha(R6)

- 6次産業化などによる多様な業務を準備したことにより、平均工賃4万2千円を達成。
- ノウフクJASの取得により市内スーパーのマルシェ内に「ノウフクJAS」コーナーが設置され販売を開始。
- 桑の葉の需要増により、桑農園が開設当初の2,200坪から7,000坪へ拡大。
- 桑の葉収穫では地元住民、小学校との協力が得られ地域との連携が強化。
- 農業収入は950万円になり、平成29年取組当初の2倍以上に拡大。

観光農園であるグループ企業と連携し、自社生産したいちごを販売している他、ジャムや焼き菓子等の加工品、クレープなどスイーツの店舗販売・キッチンカーや無人販売を行うことで高収益化を実現。

福祉事業所

栃木県
小山市



基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年

取得認証等: ノウフクJAS(R6年)

概要

主力商品
(農作物)いちご
(加工品)ジャム、焼き菓子

特徴的な取組
6次産業化

体制図

- 社会福祉法人めぶき会 ▶ 就労継続支援A型事業所いちごの里めぶきファーム
- ▶ AB多機能型事業所第2いちごの里めぶきファーム
- ▶ 就労継続支援A型事業所第4いちごの里めぶきファーム
- ▶ 生活介護事業所いちごの里めぶきプラス

住所: 栃木県小山市大川島550-6

TEL: 080-1185-4210

Mail: y.oguro@itigo.co.jp

URL: <https://www.mebuki-itigo.or.jp/company/>

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R2年

人手不足解消・地域貢献のために農福連携を開始。農業指導を受け、自社でいちごの生産を開始。

取組

人を耕す

- 知的・精神・身体皆で協力しながらそれぞれができることを見つけ農作業に取り組む。
- 障害者の特徴に合わせ、力を発揮できる作業を行うことで、200棟近くのハウスを管理。
- 利用者からパート、社員にステップアップし、県で初めてのピアサポーターとして活躍する社員を輩出。

地域を耕す

- 農福連携で大人数で緻密な作業を行うができ、高単価でのいちご販売を実現。
- 高齢にて農地の受け手がない農地を福祉法人で買い取り、農地の維持に貢献。
- 荒廃農地を再生することで景観保全や地域農業基盤の強化に寄与。
- JA、地元企業、行政、学校と連携し、農業×福祉×教育×地域経済のネットワークを形成。

未来を耕す

- 障害者が主体的に農業に係れるよう、生活介護の利用者から就労支援まで一貫した支援体制を構築。ICTを活用した作業記録や若年層の農業体験も取り入れ、世代を超えて農業に親しむ独自のモデルを構築。
- 地域農家との協働モデル、いちごによる収益のあげ方、福祉施設の6次産業化モデル等をまとめた実践ノウハウを全国に共有し、農福連携の普及に寄与。

成果

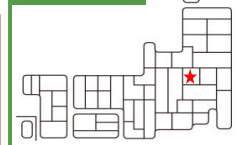
平均工賃月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
9万円(R2) →11万円(R6)	30人(R2) →40人(R6)	1,170万円(R2) →2,670万円(R6)	0.25ha(R2) →0.35ha(R6)

- 障害者の社会的役割・存在感が向上するという福祉的効果が得られている。
- 障害者等が主戦力として扱われるようになり、平均賃金は9万円台後半。
- グループ企業を中心に就職を行っているため、退職率が極めて低く、障害を理解する職場環境を構築。毎年10名程度の施設利用者が卒業。
- 自分にはない強みを他の利用者から見つけお互いに認め合いながら協力して作業を実施。
- ノウフクJASの取得、加工品(例:ジャム・焼き菓子)開発への着手を通じて、農産物の6次産業化を推進。

利用者の能力を引き出せる作業環境をつくることで、高い工賃による賃金収入と障害者年金による障害者の生活自立を促し、一般事業所での就職チャレンジを支援。

福祉事業所

群馬県
前橋市



基本情報

設立:H17年 / 農福連携取組開始:H26年

取得認証等:認定農業者(R3)、ノウフクJAS(R5)

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(関東局選定)

概要

主力商品

(農作物)たまねぎ、えだまめ、ほうれんそう、ブロッコリー、キャベツ、長ねぎ、にんにく、米、育苗、小麦

特徴的な取組

慣行栽培、自然栽培、ライスセンター運営

きっかけ

H26年

利用者の工賃向上と活躍の場の拡大のため、農業路線を拡大。

人を耕す

- 障害者の農作業は、職員が障害者一人一人の特性を見極めて作業を配慮。
- 一部は、無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 全国の農福連携を実践する福祉職員等の実習受け入れを行い、より良い実践者の拡大を目指す。

取組

地域を耕す

- JAが運営していたライスセンターの廃止により、乾燥機を譲り受け、乾燥調製作業を受託。共同乾燥ではなく、農家ごとに乾燥を実施。
- 米の苗生産、委託販売を開始、認定農業者として地域の担い手に。

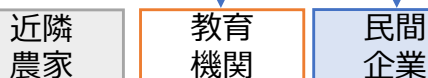
未来を耕す

- 作付面積は約16haで、米、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツなどを栽培。ライスセンター運営による乾燥調製作業を受託。
- 一部は、無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 地域の公立保育所、小学校と田植え稲刈り体験を実施し、農福教育連携を展開。

体制図

社会福祉法人ゆずりは会

就労継続支援B型事業所:菜の花、ゆずりは、エール
就労継続支援A型事業所:かたばみ(あいらず)
共同生活援助事業所:フォルテ



住所:群馬県前橋市青梨子町379-1

TEL:027-226-6090

Mail:nanohana3573@gmail.com

URL:https://www.yuzurihakai.org

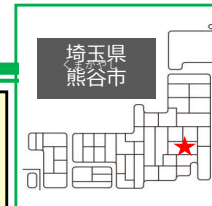
受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

成果

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
45,657円(R2) →98,754円(R6)	27人(R2) →25人(R6)	2,219万円(R2) →3,930万円(R6)	11ha(R2) →16ha(R6) (作付面積)

- 作付面積は、取組当初(平成26年)の約4haから約16ha(令和6年)に拡大。
- 平均工賃月額(新基準)は、約9万8千円(令和6年)となり、群馬県内で一番の工賃支給となる。取組当初の約2万7千円から3.6倍以上に上昇。
- 取組当初の13件から年々拡大し、63件(令和6年)となり、約4.8倍に増加し、地域の基幹作物となる米の生産維持に寄与。
- たまねぎの苗は、県内外福祉事業所等に10万本以上販売。



就労継続支援B型事業所やグループホームを運営し、農業を通じて障害者の就労から生活支援まで取り組む。ソーシャルファームの理念の下、誰も排除しない組織として、触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受け入れ。農家300軒分のネギ苗づくりをはじめ、水耕や露地で野菜を栽培し、地域農業の中心的な担い手となっている。

基本情報

- 所在地：埼玉県熊谷市
- 団体名：埼玉福興株式会社
- 選定表彰：OLIVE JAPAN2016 国際オリーブコンテスト金賞、令和元年 第43回山崎記念農業賞、ノウフク・アワード2020優秀賞等
- 主力商品：露地でのたまねぎ、白菜、オリーブの栽培、水耕栽培でのサラダほうれん草、水菜、ルッコラ等
- 取得認証等：ノウフクJAS、ASIAGAP

取組の概要

- 就労継続支援 B 型事業所やグループホームを運営。34名の障害者が、施設での水耕栽培、ネギ苗の育成、露地での玉ねぎ、白菜、オリーブの栽培に従事。
- 仕事に人を合わせるのではなく、重度知的、精神、身体及び発達などの障害に応じた作業を作り、すべての障害者に仕事を創出。
- 障害者が不得手な作業は、地元の農業資材会社、白菜組合、オリーブオイルソムリエ協会などとパートナー契約を結び、連携することで分業化し、経営を効率化。
- 触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受入。



オリーブ



オリーブオイルコンテスト金賞



白菜畑での作業

体制図



取組の成果

- 水耕栽培、露地栽培、果樹栽培の組み合わせることで、一年を通じた農作業を創出することにより、埼玉県の平均工賃を上回る20,000円/月を実現。また、これまでに自社及び他企業へ4名の一般就労を実現。
- 触法障害者2名を受け入れ。就労支援だけではなくグループホームなどによる生活支援により、約18年間、再犯していない触法障害者も在籍しており、現在は農業班のリーダーとして活躍。
- 福祉事業所6施設及び、農業法人3団体と連携してネギ苗づくりを実施しており、地域の約300軒の農家へ出荷。

所在地 ▶ 〒360-0203 埼玉県熊谷市弥藤吾2397-8

連絡先 ▶ TEL:048-588-6118 E-mail: arai@saitamafukko.com

ウェブサイト ▶ <http://saitamafukko.com/>

【取組のプロセス】

平成5年

きっかけ

工業生産の海外進出により、下請作業などの障害者の仕事が減少したことから、食に関わる農業であれば、仕事がなくなることはないと考え、障害者でも取り組める農業の研究を開始

社会福祉法人むさしの郷の生活寮「年代寮」開所

平成15年

特定非営利活動法人Group Farm設立・独立

- 平成5年に社会福祉法人むさしの郷の生活寮として事業を開始。
- 平成15年にGroup Farmを設立、翌年、社会福祉法人むさしの郷から独立。
- 埼玉県の支援や地域農業者の協力を得て、障害者が農業に取り組めるよう、実験ハウスでの施設栽培を開始。

農地面積：0.5ha
ビニールハウス：1棟（432㎡）

平成18年

個人として新規就農～農業生産法人化

- 平成18年、個人として農業経営基盤強化促進法により農地を借り受け、新規就農。
- 平成19年、埼玉県における株式会社の農業参入第1号として、農業生産法人となる。

農地面積：0.9ha
ビニールハウス：1棟（1080㎡）

平成21年

ソーシャルファームの推進に向けた実証モデル事業への取組

- 平成21年就労継続支援B型事業所「オリーブファーム」開所。

水耕栽培ハウス
1161㎡増設
花のプロ協力開始

平成27年

研究への参画

- 令和2年度、「障がい者養蜂での労働環境創出調査研究」に参画。
- 令和4年度、「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」に参画。

平成30年埼玉県障害者施設農業支援事業の活用

平成30年

次世代Social Firm宣言

Social Firmの定義を「社会的健康」へ世界へ発信！

- 「地域に必要とされる特例子会社」の形を日本で初めて生み出す。生活介護・就労支援から障害者雇用までの、働くを選べる地域環境を創出。
- 藍染を通じた徳島と埼玉のアグリツーリズム、一つのノウフクツアーを開始予定。

平成30年ASIAGAP取得
農地面積：4ha
ビニールハウス：4棟

今後の展望

令和3年ノウフクJAS取得



グループの集合写真



たまねぎ



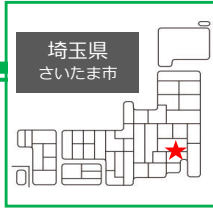
審査・認定の結果、以下の内容で、貴団体がASIAGAPの認定を
取得したことを証明いたします。

認定団体
埼玉福興株式会社

【認定の種別】 個別認定
【認定農産物】 〒369-0202 埼玉県熊谷市御前2-9-4
【認定施設名称】 埼玉福興株式会社
0293-540799 〒369-0201 埼玉県熊谷市御前2-9-4（認定）
工場
【認定対象の農産物品目と品種】 青果物（たまねぎ）
【業種・業態】 ASIAGAP 農産物 管理員と組合員等 従業員14名
【生産工程のフロー】 81.2

【登録番号】 411990004
【認定機関】 認定機関（任意番号） 100 一般財団法人日本農産物検査協会
【認定年月日】 2020年12月24日
【認定有効期限】 2020年12月27日
〒1105-0522 東京都中央区本町3-1-22

ASIAGAP取得



障害者が、働きながら一般企業への就職や、安定した就労を実現することを目的に就労継続支援A型事業所を平成27年3月に開設。椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。

基本情報

- 所在地：埼玉県さいたま市
- 団体名：株式会社ゼネラルパートナーズ アスタネ
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸
- 取得認証等：認定農業者



生椎茸



乾燥椎茸

取組の概要

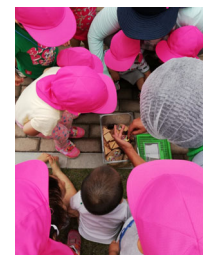
- 就労継続支援A事業所「アスタネ」は、700㎡の土地にビニールハウス3棟を設置にし、利用者約29名で椎茸の生産～販売に係る業務、運営を実施。
- 地元スーパーマーケットを中心に40店舗程度で展開。新型コロナの影響で一時的に生産規模を縮小したものの、その後、生産規模をもとに戻し、他の障害者施設とも協働し、成長中。
- 保育園とのイベントや、一般、グループ向け椎茸狩り体験を行うことで食育の推進に貢献。



菌床椎茸の栽培

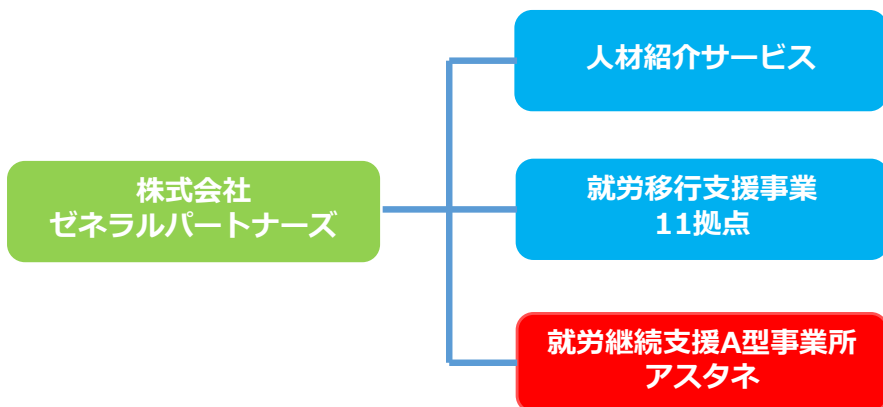


店舗での試食販売（令和元年）



保育園でのイベント

体制図



取組の成果

- 質の高い椎茸を生産するとともに積極的な販路の拡大により、農産物売上や利用者数も増加。平均工賃も毎年増加するなど雇用創出モデルを確立。

	平成28年度	令和5年度
農産物売上	976万円	1億1,300万円 (11.6倍)
利用者数	11人	29人 (2.6倍)
平均工賃	58千円	100千円 (1.7倍)

7年間

所在地 ▶ 埼玉県さいたま市桜区西堀8-3-15-1
 連絡先 ▶ TEL : 050-3645-0686 E-mail : asutane@generalpartners.co.jp
 ウェブサイト ▶ <http://www.asutane.jp/>

【取組のプロセス】

「社会問題をビジネスで解決する」という理念を持ち会社設立

平成15年

きっかけ

世の中から障害者の差別偏見を無くすために、障害者の人材紹介サービスを開始。運営していく中で、自分達も障害者を直接雇用し働き方についても考えて行こうと始めた。

農業をすることで、自然と触れ合う事が出来、心身の回復に繋がるのでは!?

平成27年

就労継続支援A型事業所 アスタネ設立

- 平成27年3月、障害者が主体的に働き活躍するモデルを作ること、農業の社会問題（高齢化、担い手不足、荒廃農地）を障害者の活躍により解決することを目的に設立。
- 椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。（農地面積300㎡、ビニールハウス1棟、利用者数10人、平均工賃50千円）



A型事業所 アスタネ

生産規模を拡大農業事業を利用者主体で運営

平成29年

働き方変革（障害のあるスタッフたちの主体的な働き方にシフト）

- 平成29年より、菌床変更を行うとともに利用者数を増加。定期的に面談を実施し、権限移譲を行い、各自が目標設定・チャレンジすることをサポートし、自立性を引き出す。
- 3～4人のチームで運営することで、仲間との連帯感や有能感を引き出す。
- 栽培データを活用した質の高い椎茸の安定生産により、利用者の賃金向上を実現。（農地面積700㎡、ビニールハウス3棟、利用者数29人、平均工賃64千円）



菌床椎茸の栽培

平成30年、事業の黒字化を実現

就業者数
平成30年5人
平成31年4人実現

令和2年

withコロナ

- 令和2年4月、新型コロナウイルスの影響から在宅勤務を導入するとともに生産規模を縮小。
- その後、取引先の小売店との協力で、販売動向に合った商品展開、販売企画を実施し、生産規模を回復、前年以上の売上を達成。
- 生産規模拡大のため、周辺のA型事業所に栽培ノウハウを提供し、協働で生産スタート。



販売の様子

令和3年、生活困窮者自立支援制度に基づき、生活にお困りの方の受入れスタート

令和6年1月、認定農業者に認定

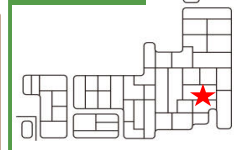
今後の展望

『精神障害者の雇用創出モデル確立 × 全国へ』

- 精神障害者の雇用管理方法やマネジメント手法をノウハウにまとめ、菌床椎茸の生産事業を収益化し、事業ノウハウとして確立。
- 現在、障害のある人が活躍する場を広げるため、他団体、他企業と組んだアスタネ型椎茸事業の展開に向けて、パートナー募集中。

埼玉県初の農業を専門に学ぶ特別支援学校として、農産物の6次産業化を实践、スマート農業にも取り組み、生徒のスキルアップと働く力の育成を実施。

特別支援学校

埼玉県
羽生市

基本情報

設立:H19年 / 農福連携取組開始:H19年

取得認証等:S-GAP(R5年)※埼玉県独自のGAP

主な選定表彰:ノウフク・アワード2024優秀賞

きっかけ

H19年

知的障害の特性等を農業に活かし、働く力を引き出す取組を実施。6次産業化を通して地域と関わることで、社会参加への自信につなげ、将来の担い手としての活躍を目指す。

人を耕す

- 作業学習のルーティン化により精神的安定や作業効率向上を図り、生徒の強みを引き出す。
- 地元生産者からの指導や生産物の販売会、地域公共施設での草木の栽培、地元幼稚園等での農業体験を行い、周囲の障害者への理解醸成を図ると共に、生徒のコミュニケーション能力向上や知識・技能の定着、モチベーション向上、自信創出ができ、共感や協調性を育成。

取組

地域を耕す

- 開校当初から周辺の休耕地を活用し、実習地として年間を通して農産物を生産。
- 地域飲食店・学校給食関係者からの依頼で、地元特産品のモロヘイヤを栽培・提供。市のふるさと納税返礼品としても活用。
- 市役所や幼稚園、文化祭、JA農業まつり等の地域イベントに生徒自らが生産物販売で参加するほか、日本赤十字社への農産物提供、地元フードパントリー活動等を通じて地域に貢献。

未来を耕す

- 地域特産品を利用したモロヘイヤうどんや地元産クラフトビールの製造は地域に新たな価値と話題性を創出。地域の活性化と同時にフードロス問題や付加価値向上にもつながり、さらには生徒の可能性を引き出す取組みとして有効。
- 県の農業生産工程管理(S-GAP)を取得。安全面で生徒の意識向上にも寄与。

概要

主力商品

(農作物)モロヘイヤ、トマト、いちご、ホップ、ニンニク
(加工品)モロヘイヤうどん、にんにく味噌、クラフトビール

特徴的な取組

スマート農業、6次産業化、環境保全型農業、地産地消

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

生徒数

118人(R2)
→102人(R6)

年間売上

186万円(R2)
→140万円(R6)

耕地面積

0.47ha(R2)
→0.37ha(R6)

温室・作業室等面積

0.12ha(R2)
→0.12ha(R6)

- 地域とのさまざまな連携により、生徒の社会参加への自信につながり、異なる立場の人と活動することで、共感や協調性を育む場を創出。
- 開校以来、農業関連企業・法人への実習受入れは卒業生の約9.8%(延べ59名)、また農業関連企業・法人への就労は約6.2%(延べ17名)となり、農業関連への就労という選択肢を着実に開拓。

住所:埼玉県羽生市下羽生320-1

TEL:048-560-2020

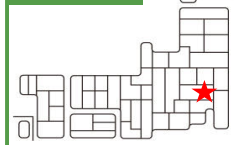
Mail:otuka.syunta.57@spec.ed.jp

URL:https://hanyufuji-sh.spec.ed.jp/

特別支援学校と連携して地元狭山茶の栽培管理等や、地鶏の飼育から商品開発・販売までの産業化に取り組むことで双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

高等学校

埼玉県
川越市



きっかけ

R5年

地鶏商品の新たなパッケージデザインに障害者アートの活用が決まり、特別支援学校に協力を依頼したことがきっかけで、それぞれの得意分野を活かした協力体制・連携を構築。

人を耕す

- 様々な作業工程の中で、双方の生徒の特性や得意分野等を知ることができた。
- 特別支援学校の生徒が描いた絵をパッケージデザインに使用することで、特別支援学校の生徒の活躍の機会となり、喜びと自信に繋がった。
- 双方の生徒が自ら育てた農畜産物が商品化され農業に対する意欲向上に貢献。

地域を耕す

- 地域特産のお茶を鶏の飼料に加えることで、鶏肉の風味や品質が向上したほか、紅茶の茶殻や廃棄される茶葉を再利用することで、食品ロスの削減にも繋がり、SDGsの達成に貢献。
- 高校生、特別支援学校の生徒、お茶生産者が連携し、合同での茶摘み体験や地域イベントでの生産物販売することで、地域のつながりが生まれ、障害者への理解を促進。
- 入間わかさ高等特別支援学校が運営するカフェで、川越総合高等学校の製造商品を提供。

未来を耕す

- 異校種交流やイベント参加を通し多様な人と関わることで、双方の生徒の進路選択に幅が広がり、将来のキャリアを考えるきっかけとなっている。
- 学校における農福連携の促進を目指し、特別支援学校との連携事例を外部に紹介。
- 地元狭山茶の栽培管理等を通して、特別支援学校・農業高校・工業高校・商業高校が連携している取組は珍しく、新聞やテレビなどの報道でも取り上げられている。

取組

基本情報

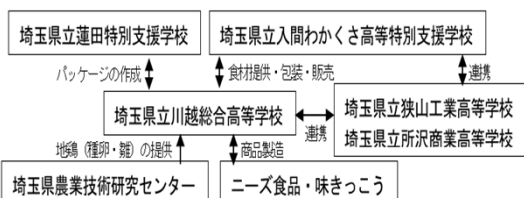
設立:T9年 / 農福連携取組開始:R5年

概要

主力商品
(農作物)地鶏(タマシャモ)、米、にんじん
(加工品)タマシャモカレー

特徴的な取組
スマート農業、6次産業化

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

農産物売上高

44.9万円(R5)
→87.8万円(R6)

交流人口

10人(R5)
→30人(R6)

- 農業を通じた交流の中で、生徒の障害者に対する理解が深まり、お互い得意分野を活かし、協力し合う環境を整備。
- 本校生徒にも人間関係の構築が苦手な生徒も多く、はじめは戸惑っていたが、農業を通じた交流の中で、障害を持つ生徒と積極的に交流していく姿勢がみられた。
- パッケージの個包装作業を特別支援学校の生徒に担ってもらうことで、完成品の安定供給が可能となり、増産され販売数が向上。

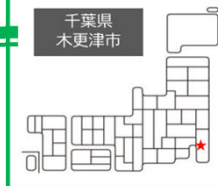
住所:埼玉県川越市小仙波町5丁目14番地

TEL:049-222-4148

Mail:r224148@pref.saitama.lg.jp

URL:https://kawagoesogo-h.spec.ed.jp/

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可
特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等):可



遊休農地を活用した高収益のブルーベリー（無農薬・無化学肥料）を栽培し、新たに障害者と高齢者の雇用機会を創出。観光農園として、首都圏住民の誘客が図られ地域活性化にも大きく貢献。6次産業化による高い工賃も実現。

基本情報

- 所在地：千葉県木更津市
- 団体名：特定非営利活動法人一粒舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021優秀賞
豊かなむらづくり農林水産大臣賞（2016年）
木更津市観光ブルーベリー園協議会で団体表彰
- 主力商品：イベントへキッチンカーで出向き販売、ブルーベリー、ブルーベリー加工商品（ジャム・クロワッサンサンド・スムージー・パフェ等）、無農薬野菜
- 取得認証等：有機JAS



ブルーベリーを使用した商品

取組の概要

- ブルーベリー栽培、加工、販売、観光農園スタッフとして障害者20名が仕事に従事。1.2haのブルーベリー園の管理のほか隣接する里山3haを保全管理。
- 作業機械の講習を行い、安全に機械操作ができる障害者が増加。機械操作が不得手な障害者は、野菜作りなど、手作業中心の仕事を担当。職域を広げ、観光農園の受付やレジに障害者を登用。
- ブルーベリー以外にも荒廃農地となった里山の竹や草を刈った後に桜や菜花を植栽。
- 2021年にブルーベリー園が有機JAS認定。
- 職員（11人）の平均年齢68歳。農業未経験者の第二の就職先として、福祉と農業に高齢者ならではの知恵と力を発揮。



ブルーベリーの摘みとり



地域住民依頼の草刈作業



再生された里山

体制図

特定非営利活動法人 一粒舎

就労継続支援 B 型事業所

ブルーベリー農園のらり・くらり

カフェ風の里

近隣農家

木更津市

木更津市観光ブルーベリー園協議会

道の駅うまかつの里

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(平成19年)の2,500㎡から12,000㎡（令和5年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約5万900円（令和5年）となり、取組当初の1万8千円から約2.8倍に上昇。工賃は千葉県内に約400あるB型作業所の中で5番目以内。
- 障害者就労：取組当初の16人から20人（令和2年）に就労拡大。
- 波及的な成果：地元小学校にブルーベリーが植樹されるなど、地域特産として児童の情操教育にも貢献。市内の全小学生対象に、毎年協議会の摘み取り案内のチラシを配布。

所在地 ▶ 〒292-0211 千葉県木更津市大稲54-1

連絡先 ▶ TEL：0438-53-8115 FAX：0438-53-8116 E-mail:iidak22@yahoo.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.norarikurai.info/>

【取組のプロセス】

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

平成19年

木更津市に相談

平成20年

リタイアする農家
が増

平成22年

平成30年

カフェ、道の駅に
よる販路開拓

今後の
展望

きっかけ

最低3万円の工賃を目標にして福祉事業所を開設したが、景気低迷により下請作業が減少したことから農業を検討

梨園跡地でブルーベリーを植栽

- 下請けしていた従来の仕事なくなり農業を検討。
- 遊休農地の活用を木更津市に相談し、「高収益」と「農薬を使わないブルーベリー」に惹かれ取り組む。梨園の跡地を借りて開墾し400本植栽。

近隣のリタイア農家から田畑賃貸が急増

- 農家の高齢化とともにリタイアする農家より農地を賃借。
- ブルーベリーが当初植栽した400本から1200本に増加。ブルーベリー園を拡大。
- NPO法人格を取得。平成23年から就労継続支援B型事業所へ移行。
- 圏央道開通に伴い、キッチンカーを導入。

カフェ 風のさと開設、無農薬新鮮野菜商品の開発・販売

- 廃屋の納屋を改装しカフェを開設。観光農園、カフェのレジは障害者が担当し新たな雇用の場を創出。職員は異業種を定年退職した高齢者が第二の職場として活躍。
- 無農薬野菜とブルーベリージャムをクロワッサンサンドにして道の駅でも提供。
- キッチンカーを作り、様々なイベント会場に出店。ブルーベリーのスムージーやパフェを提供して、ブルーベリーの魅力を宣伝。

ブルーベリーがつくる新たな農福連携に挑戦

- ブルーベリー観光農園を柱とし、里山の自然を生かした体験型イベントや花の里として新たな関係人口を創出。
- 令和3年に有機JAS認定。さらに来園者・障害者雇用を増やすきっかけづくりとしたい。
- 農業+福祉+高齢者の仕組みを確立して、地域の活性化を図りたい。
- 利用者の月当たり平均工賃を5万円以上にしていく。



キッチンカー



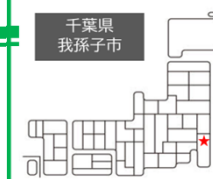
イベント（感謝祭）



風のさと（カフェ）



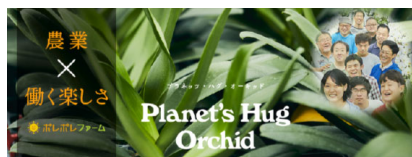
利用者、職員全員集合写真



帝人(株)の特例子会社としてオーガニック野菜や胡蝶蘭等を生産。監督職員が技術指導・生活相談・ジョブコーチを兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化及び社員の成長を実現。

基本情報

- 所在地：千葉県我孫子市
- 団体名：帝人ソレイユ（株）我孫子農場
（屋号：ポレポレファーム）
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：胡蝶蘭、野菜類、干し芋、
食用バラ/エディブルフラワー、
農作業ボランティア、ピザ窯ランチ
- 取得認証等：－



農業×働く楽しさ

取組の概要

- 自社農園で、高付加価値の①オーガニック野菜（2 ha）、②エディブルローズ（中型ハウス1棟）、③胡蝶蘭（大型ハウス1棟）を生産・販売。
- 農業事業部に18名を最低賃金以上で雇用、マネージャー3名（うち1名が農福連携技術支援者、障害者職業生活相談員、企業在籍型職場適応援助者）がジョブコーチ役を兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化、さらには社員の成長を実現。
- 大企業の強みをフル活用し、大型投資（胡蝶蘭ハウス5千万円等）、CEO等のトップセールス（胡蝶蘭）、国内社員1万人の協力・支援、定期メルマガ受信5,700名等を背景に、順調に雇用拡大と黒字化に向けて進捗。



胡蝶蘭栽培の様子



胡蝶蘭ブランド



オーガニック野菜 エディブルフラワー



体制図

帝人（株） 親会社

帝人ソレイユ（株）特例子会社

オフィスサポート部

農業事業部（ポレポレファーム）

胡蝶蘭事業グループ / 野菜・バラ事業グループ

社会福祉法人
障害福祉サービス事業所

特別支援学校

取組の成果

- 障害者雇用者：当初（平成31年）の3名から18名（令和6年）に拡大。
- 平均賃金：約16万円（最賃×7.5h×21日）を維持し雇用者を拡大。
- 売上額：前年比140%で伸長して数千万円（令和5年）に増加。
- その他の成果：野菜事業は宅配と直売所でほぼ完売。胡蝶蘭は、大手企業を中心に150社超から受注があり、順調に推移。特長ある取組が評価され、NHKをはじめとしたメディアから多数の取材を受ける。
- 令和5年、障害者雇用を行う優良な中小事業者として、厚生労働省による「ものにす認定」事業者となる。

所在地 ▶ 〒270-1101 千葉県我孫子市布佐845-1

連絡先 ▶ TEL:04-7199-9591 E-mail: porepore_farm@teijin-soleil.com

ウェブサイト ▶ <https://teijin-soleil.co.jp/>

【取組のプロセス】

障害者のクオリティ・オブ・ライフの向上
共生社会の実現、社員の成長

平成27年

きっかけ

障害がある家族を持つ社員有志が特例子会社設立を企画提案し、
帝人（株）の経営会議で会社設立が承認され（平成30年）、有志社員の一部が
人事異動して経営に携わる

会社設立により障害者雇用を開始。特例子会社として認可

- 平成31年会社設立。我孫子農場での農業班3名、東京本社でのオフィスサポート班4名の7名で障害者雇用を開始。
- 特例子会社として認定。オーガニック野菜の出荷開始。



オーガニック野菜

平成31年

胡蝶蘭ハウスの竣工、食用バラ/エディブルフラワーの生産開始

- 胡蝶蘭ハウスが竣工。農業事業部の下に胡蝶蘭事業グループを新設。
- 食用バラ/エディブルフラワーの販売開始。我孫子市内レストランに販売・出荷。
- 干し芋生産の開始。我孫子直売所で販売し完売。



エディブルフラワー

令和2年

胡蝶蘭アレンジメントのリリース、胡蝶蘭ブランドの立ち上げ

- 胡蝶蘭を使用したアレンジメントフラワーを外部と組んで開発し、新発売。
- 胡蝶蘭ブランド「Planet's Hug Orchid」を立ち上げ。
- 我孫子市のふるさと納税返礼品として胡蝶蘭アレンジメントを登録。



胡蝶蘭アレンジメント

令和5年

バラ調製作業を福祉事業所に外注、「もにす認定」事業者となる

- バラの出荷調製作業を我孫子市内のB型事業所の施設外就労作業として外注を開始。
- 厚生労働省より優良な障害者雇用主として「もにす認定」を取得。

障がいのある方々にとっての“新しい現実を創る”

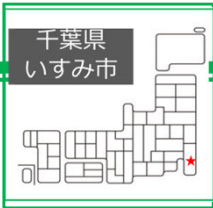
- 「農福連携」という国を挙げた農業での障害者雇用拡大の動きも追い風にしながら、企業型の成功モデルを確立し、「ハンディキャップのある方々がこんなにスゴイことをやっているんだ！」という驚きを世界に発信していけることを目指す。



ポレポレファーム

今後の
展望


Joy at Work
(やりがいと働く
楽しさ)の具現化



地元の牧場が堆肥を活用して約20年間行ってきた食用菜花栽培を事業継承し、約4,500坪の畑を障害者、職員、地域との連携ネットワークを活用し、農業経営に取り組む

基本情報


- 所在地：千葉県いすみ市
- 団体名：社会福祉法人 土穂会
障害福祉サービス事業所
ピア宮敷第1工房
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
フレッシュ賞
- 主な取組：菜花経営、ハーブ育苗・栽培、米育苗、ごま油製造販売、梨剪定枝拾い、ライ麦ストロー、ホエイドレッシング製造
- 取得認証等：－




菜花畑にて作業をおえた利用者

取組の概要


- 地元の牧場経営者から事業継承を受けた菜花生産を、栽培、収穫、出荷、販売まで農福連携により取り組む。
- 地元JAや農業事務所による栽培指導を受け農作業の知識、経験不足を補う。
- 菜花の品質保持のため長年菜花栽培に関わる地域の高齢者（菜花ガールズ）が参画。
- 生産性向上のため利用者の強み、個性を活かした作業の見極めを行う。職員の育成の場として「農業で福祉が伸びる」を合言葉に取り組む



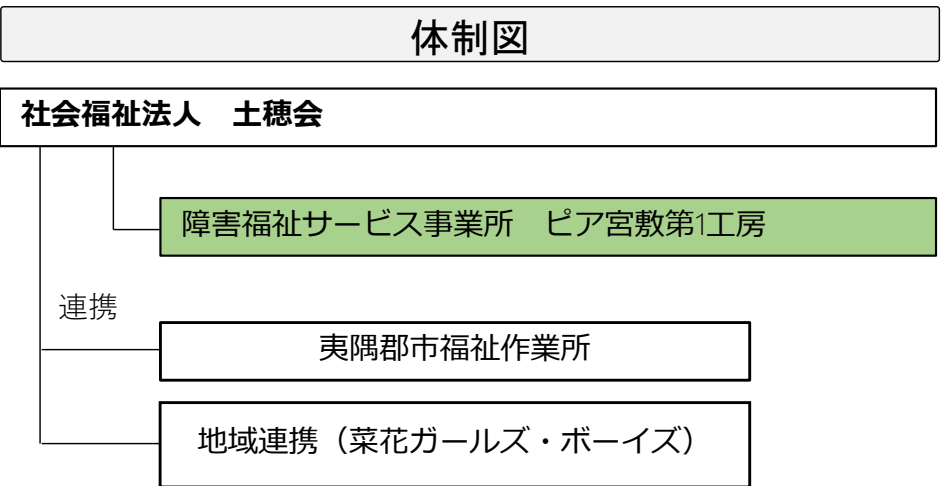
利用者による菜花収穫の様子



枝を使って間隔を図り菜花定植作業



選別作業中の利用者



取組の成果

- 菜花栽培においては、作業に関わる障害者が当初の15名から25名まで増加した。障害者就業・生活支援センターに協力し、地域の障害者が就労訓練で参加。
- 菜花の栽培に参加していた障害者1名が、作業を通じて体力が付き、特例子会社に就職できた。R5年度から地域の特例子会社が仕事として菜花収穫作業に合流している。
- 平均工賃が取組当初（令和元年）の13,000円から22,000円に向上。
- 年々菜花栽培農家が減少する中、地域の菜花栽培維持を期待される。

所在地 ▶ 〒299-4504 千葉県いすみ市岬町桑田341-1
 連絡先 ▶ TEL:0470-87-5201 E-mail:kobo4@tsuchibokai.or.jp
 ウェブサイト ▶ <http://minnahatake.com/>

【取組のプロセス】

令和元年

日中活動として
ごま油製造、切り
干し大根加工に携
わる

きっかけ

地域活動で知り合った牧場が約20年間黒字で続けてきた食用菜花栽培を高齢化と人手不足で辞めたことを聞き、「もったいない」気持ちから勢いでスタート

事業継承による菜花栽培

- 事業継承により菜花のほ場やトラクター等の大型機械の無償貸与を受け、菜花の栽培から販売までに取り組む。
- 販路の確保ができていたこと、栽培に関してオブザーバーがいることで安心してスタート。
- 菜花栽培は障害者だけでなく、地元の高齢者グループ「菜花ガールズ」と協力し取り組む。



笑顔で作業している利用者さん

令和2年

菜花栽培を開始

農福連携による広がり

- 菜花事業をきっかけに、ほかの農業生産団体からの仕事の受注につながる。
- 都内企業からの農業体験の受け入れなどを通して連携の輪が広がる。
- 近隣の地域の農家へ施設外就労で人手不足解消の一役を担う。
- 菜花が地元の飲食店で食材として使われてたり、いすみ鉄道とのコラボレーションによる菜花うどんの商品化につながる。
- 特別支援学校の農業体験受入等も行う。



職員の支援力アップに向けた勉強会

令和4年

菜花に加え梨の剪
定し拾い受託

ライ麦ストローや
ハーブの育苗を受
託

取組の工夫

- 利用者がより活躍できる支援の方法を模索し、事業所の職員が農家に経営などを学ぶとともに、菜花の栽培マニュアル等の作成や利用者一人一人に合わせた治具の作成等を行う。
- 利用者の力量を決めずに、なんでもやってみようという声掛けを行い、利用者の強みを発見し作業に反映するとともに、タイムマネジメント、効率化などにも取組生産性の向上を図る。



いすみ鉄道とのコラボによる
菜花うどん

今後の
展望

地元農家等からの
依頼で米苗づくり
の開始等地域から
相談が入り始める

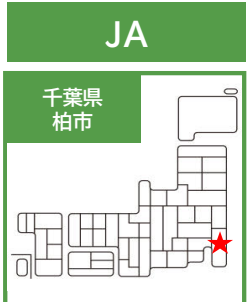
農業で福祉が伸びる

- 法人の協力体制の広がりから職員の支援力アップ、そして利用者の活躍の場面が広がることで農業により福祉が伸びることを実感した。農家から応援依頼も増え、ピア宮敷だけでなく、他のB型事業所と農家をマッチングし、地域全体で農福連携の促進を図る。



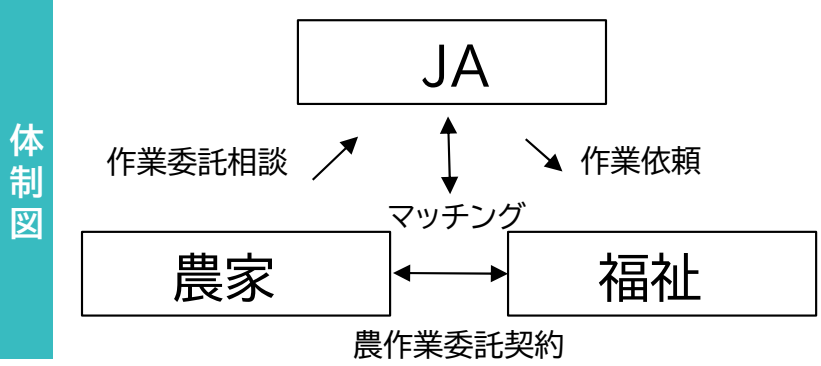
地元の飲食店で菜花を使った
食材の提供

組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。



基本情報
 設立:H22年/農福連携取組開始:R3年
 取得認証等:ノウフクJAS

概要
 特徴的な取組
 中間支援



TEL:090-9816-9045
 Mail:Shohei-Kawashima@ja-chibatoukatu.or.jp

きっかけ

R3年
 生産者の悩みである将来的な労働力確保について、スポット的な労働力提供として、福祉の力を借り、農業現場での農福連携に着手。

人を耕す

- 農家と福祉事業所の間を調整し、労働に見合った作業単価を決定。作業難易度をグラフ化し、各事業所のスキルに合った仕事を提供。
- JAの青壮年部会での農福連携の説明会を通じて、農家の理解が深まり、参加者が増加。
- 地域包括支援センターと共同して、障害者だけでなく、ひきこもりの状態にある者や犯罪をした者も受け入れられるよう環境を整備。

取組

- 地域を耕す**
- 労働力が減少する中で、管内で農福連携に取り組む農家にとって、障害者は必要不可欠な存在になっている。
 - 農福連携に取り組む農家は、福祉事業所と協力して地域イベント実施、加工品開発等に取り組むほか、生涯大学校や高校と連携し、幅広い世代を対象とした農福連携の啓発活動を実施。

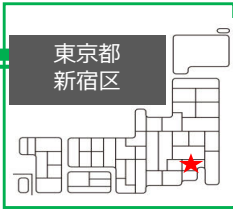
未来を耕す

- 農福連携のマッチングにより、地域農業の安定化につながっていることが、メディアで取り上げられるようになり、JAグループ内や市町村等によるセミナーでの発表機会が増加。
- ノウフクJASを取得し、販路拡大を強化。

参加福祉事業所数	参加農家数	マッチング件数	—
1事業所(R3) →19事業所(R5)	2戸(R3) →15戸(R5)	1件(R3) →80件(R5)	

成果

- 県担い手支援課や農業事務所、農業者支援センターとも共同し農福連携の見学会を実施し、40名が参加。農家から新たにマッチングを希望する声が上がった。
- 対外的な活動が増加し、見られる事が増えた結果、農家も福祉事業所も「注目されているからもっと頑張ろう」という気持ちで団結力が高まり、作業のスキルアップを実現。



新宿区内の身体・知的・精神障害者が通う福祉事業所等30か所が集まり、（公財）新宿区勤労者・仕事支援センターを事務局として、障害者の工賃向上や地域交流を目的にネットワークを組織。「しんじゅQualityみつばちプロジェクト」を立上げ、都心のビル屋上等を利用した養蜂事業を展開し、サステナブルな社会の実現に貢献。

基本情報

- 所在地：東京都新宿区
- 団体名：新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：養蜂、はちみつ
- 取得認証等：－



しんじゅQualityみつばちプロジェクト

取組の概要

- ネットワーク・オリジナル商品づくりとして障害者による養蜂事業を企画立案し、新宿区の協力もあり実現。はちみつを使った商品の製造、販売や大手百貨店とのコラボ商品・ブランドづくり、販売会を実施している。
- 障害者は、蜜蜂の飼育・採蜜・はちみつの瓶洗浄、ラベルシール貼りといった作業に取り組む。障害の違う事業所が連携・分担し、障害者自身が主体的に取り組むなど新たな仕事を生みだしている。
- 都内ホテルではちみつを提供する宿泊プランや、有名菓子店ではちみつを使った菓子づくりが行われ、商品としてのブランドの付加価値を高めている。



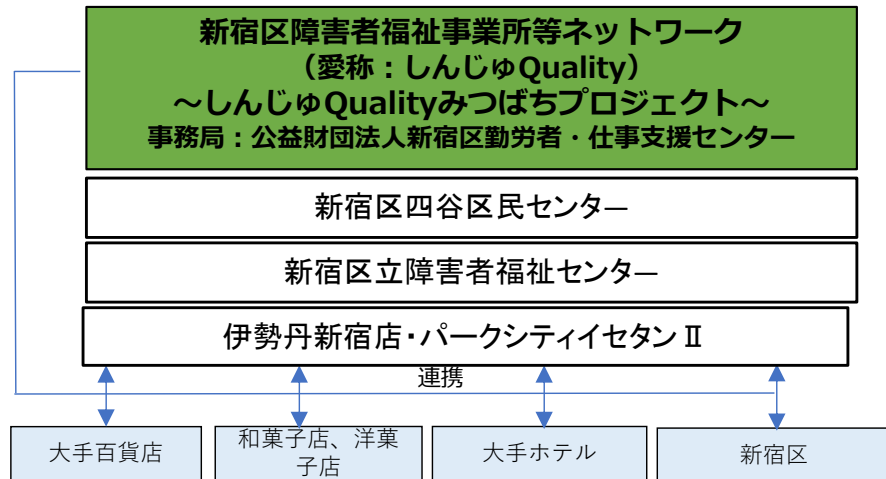
パークシティイセタンⅡでの養蜂作業とMIELはちみつ



障害者センターでの養蜂作業と新宿しQハニー



体制図



取組の成果

飼育委託費：設立当初（令和元年度）の42万円から255万円（令和5年度）に拡大。
 養蜂拠点：設立当初（令和元年度）の1拠点から3拠点（令和3年度）に拡大。
 波及的な効果：養蜂事業を通じて、百貨店、飲食業関係者、都市住民等、今までつながりのなかった人達との新たな関係が構築できた。また、障害者への理解の促進や、生き物と自然環境の保護の重要性を地域社会に伝えることに役立っている。

所在地 ▶ 〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目3-29 新宿ここ・から広場 しごと棟
 連絡先 ▶ TEL:03-5273-3852 FAX :03-3208-3100 E-mail:shinjuQuality@sksc.or.jp
 ウェブサイト ▶ <http://www.sksc.or.jp/shinjuQuality/>

【取組のプロセス】

平成28年

きっかけ

新宿区内障害者福祉事業所製品のブランド化検討のため、有志事業所によるブランドプロジェクト企画を検討

都心における新規ブランドを検討。

平成30年

ネットワークの愛称「しんじゅ Quality」と決定

- 様々な障害の違う福祉事業所等30か所が集まり、それぞれの特性を発揮し、主体性を持って活動できる環境を作るため「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」を設立。ネットワークの愛称を「しんじゅ Quality」と決定。

ビル屋上を利用した養蜂事業を企画。

令和元年

養蜂事業「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始

- オリジナル商品づくりを目指して、新宿区四谷区民センターで養蜂事業を開始。
- 新宿マルイ本館・新宿高島屋で自主製品の販売会「しんじゅ Qualityハンドメイドマーケット」を開催し、障害者が社員と協力し販売業務を実施。

令和2年

都心ビル屋上に養蜂拠点を拡大

- 新宿区立障害者福祉センター屋上（令和2年度）、伊勢丹新宿店パークシティイセタンⅡ屋上（令和3年度）に養蜂拠点を拡大。
- 前年度に養蜂活動を実施した事業所の障害者が、新たな事業所に養蜂作業のレクチャー、サポートを実施。親子連れをはじめ様々な地域の人達の見学が増加。

今後の展望

多様な人や様々な生き物が互いを受容し助け合い共存共栄できるサステナブルな社会の実現に貢献する

- 「しんじゅ Quality」の活動を通して、障害者と地域の企業、学校、行政、地域住民など子供から大人まで、そしてあらゆる生き物が互いの価値や魅力を合わせることで、新しい「地域の力」を創造する。

しんじゅ[®]
Quality



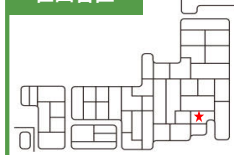
しんじゅ Quality
ハンドメイドマーケット



養蜂の様子

世田谷に誰でも参加できるインクルーシブな「夢育て農園」を開園し、知的障害者・発達障害者の教育法を日々進化させつつ、質の高い「農福×教育」事業を展開。

その他

東京都
世田谷区

きっかけ

R4年

支援学校卒業後の学びの場がない「18歳の壁」に問題の一つの解決策を提示し、「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環づくり」を目指して設立。

人を耕す

- 知的障害者・発達障害者を対象に、系統的認知能力強化と運動機能強化、主体性を育てる夢語りの時間と、農作業を組み合わせた「人を育てる畑青年コース」を週1回2時間半開講。農作業を通じて認知的発達・成長を図る。令和6年から少年少女コースも開講。同年より夢育ての方法“夢育て1.0”を採用する全国の事業所と夢育てアライアンス設立。令和7年から株式会社ファミリーマートが夢育て1.0を採用、共同で障害者の生涯に渡る学びの場を運営

地域を耕す

- 多品目野菜の有機栽培を中心に、誰でも参加できるオープンデイを毎月開催しており、令和4年のみかん狩りには5200人が参加。ノウフクフェスタや地元での販売も実施しており、千葉大と共同で製造したみかんソースなどを販売。区内での農園移転を機にR8年3月夢育て農園ちとからランドオープンを行い区長をはじめ100人ほどが集まったり、野菜を通じて地域と結びつきを深める等ユニバーサル農園化を推進中。

未来を耕す

- 農福連携による障害者の認知機能向上・自立促進の可能性を追求。障害者への教育法を伝えるワークショップを開催し認知発達促進法を普及。これまで60余名が受講し全国で活用中。
- 誰もが夢を育み、目指すことのできる「夢を育てる社会」とするため、どんなに障害があっても、いくつになっても成長できる「認知の学校」設立を目指す。

取組

基本情報

設立:R4年 / 農福連携取組開始:R4年

主な選定表彰:2023グッドデザイン賞(ニコニココイン)

概要

主力商品

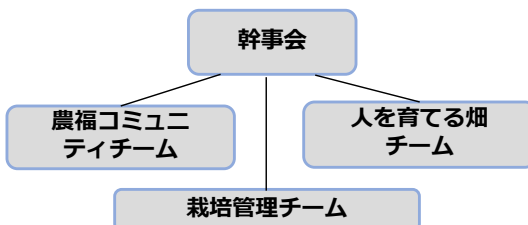
(農作物)有機野菜、藍、みかん等
(加工品)みかんソース

特徴的な取組

有機、認知的成長支援、ユニバーサル農園、環境保全型農業

体制図

夢育て農園設立委員会
(株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテの合議体)



住所:東京都世田谷区南烏山1-10-25-403

TEL:080-5088-6271

Mail:maekawa@yume-sodate.com

URL:https://yume-sodate.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

成果

障害者数

7人(R4)
→15人(R6)

農地面積

2.4a(R4)
→7a(R6)

- 唾液から受講前後のストレス変化を計測し、高ストレス・心身不活発な状態で参加した受講者が、コース受講後には劇的にストレスを下げ、かつ心身を活性化させたことを明らかにした。
- 受講生に心理テストを実施し、明確な認知的成長を定量的に計測。受講生はできなかった作業ができるようになり、福祉活動へ積極的に参加するようになる者や、就労を実現する者も出てきている。その後も認知発達や運動機能の発達、更に行動の変化やプログラムの継続的改善等毎年、高齢・障害・求職者雇用支援機構の発表会にて成果を発表。
- 令和7年から企業として初めて株式会社ファミリーマートが農園で自社雇用する障害者の研修プログラムとして夢育て1.0を採用。従業員の認知発達や職域拡大に効果。



大規模施設園芸における労働力確保のため、障害者就労施設と連携。周年栽培と作業のマニュアル化で誰でも働ける環境を構築し、安定労働と就業機会を拡大。



基本情報

設立:S47年 / 農福連携取組開始:R3年

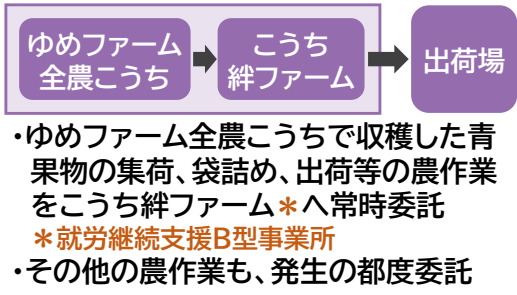
取得認証等:ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品 (農作物)ナス

特徴的な取組 スマート農業 環境保全型農業

体制図



住所:東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル
TEL:03-6271-8269
Mail:zz_zk_zennoh_horticulture@zennoh.or.jp
URL:https://www.zennoh.or.jp/

Table with 2 columns: 受け入れている者 (Body, Mental, Intellectual, Other disabilities, Life difficulties, Homelessness, Elderly, Others) and status (Yes/No)

きっかけ

R3年

JA全農が開発した大規模多収型施設園芸技術により、収量が2~4倍・栽培(出荷)期間が周年となったため、労働力の確保が課題となり、障害者就労施設への作業委託を開始

取組

人を耕す

- 作業委託料(単価)は障害者就労施設と協議し決定。作業技術向上に伴い、作業委託料も上昇する仕組みとするため1袋当たりで単価を設定。
作業のマニュアル化(書類・映像)等により適性を勘案した委託や作業中の適切な管理が可能。
単発の軽作業から圃場内作業や袋詰め、出荷と委託作業内容をステップアップし、障害者の能力向上に寄与。

地域を耕す

- 「ゆめファーム全農構想」を掲げ、雇用型農業とし、作業を分解・マニュアル化することで障害者に限らず多くの人が簡易に作業従事することが可能な大規模多収型施設園芸を推進。
ゆめファーム全農こうちは全国的に視察を受け入れて、取組の紹介を行うことで、農福連携への理解を醸成。

未来を耕す

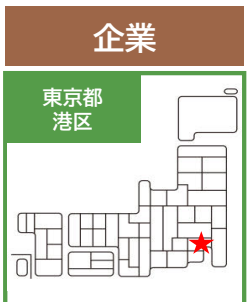
- ナスでは、簡便な作業で樹勢を維持しながら効率的かつ安定的な収穫が可能となる「ナスのつるおろし栽培法」を確立(特許第7623709号)したことで障害者就労施設への作業委託へ寄与。
環境調和型農業に資する技術・資材を体系化した「グリーンメニュー」にも取り組み、ノウフクJASを取得した商品に限らず、環境等に配慮した商品を展開。

成果

Table with 4 columns: 障害者就労施設への報酬支払額, 農地面積, 農業売上高, and a dash. Values for R3 and R6 are provided.

- 障害者就労施設への年間支払総額 技術向上・委託作業の増加に伴い金額も上昇。
常時発生する集荷や袋詰め、JAへの出荷といった作業を全量福祉事業所へ委託することで圃場運営も効率化し生産に注力できることから収益性や生産性も向上。
各種センサーや環境制御機器によるスマート農業化もすすめ農福連携に限らず働きやすい環境を創出。

世田谷区が保有する農園で、伝統野菜の栽培等を通じた自社の障害者雇用に加え、地域の障害者施設に農産物の加工や軽作業を発注することで、地域全体の障害者の経済的安定や生きがい向上を目指す。



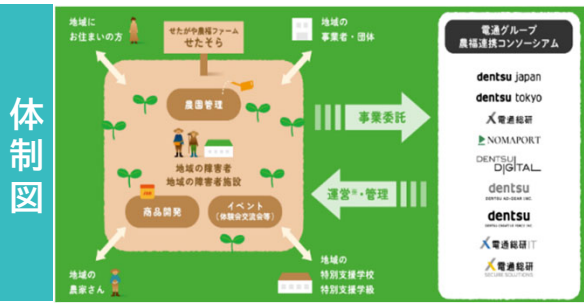
基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:R4年

概要

主力商品
(農作物)とうがらし、にんじん、大根 等
(加工品)切干大根、梅ビール、ジャム

特徴的な取組
自然農法、環境保全型農業、ユニバーサル農園



住所:東京都港区東新橋1-8-1
TEL:070-1584-0562
Mail:hamazaki.nobumi@dc1.dentsu.co.jp
URL:https://www.projects.dentsu.jp/difarm/project/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R4年 農福連携の経験から農業と障害者の相性の良さに着目し、8社+社会法人でコンソーシアムを結成して区の農地保全と工賃向上を目的とする公募に応募。選定され、本活動を開始。

人を耕す

- 能力や適性に応じた作業選定を行うほか、リーダー役や講師アシスタントなどの支援される側からする側へのステップアップを促す。
- 就業中に心身が不安定になった際に利用できるカームダウンルームを設置するなど、精神障害者等も働きやすい環境の整備。
- 互いを認め助け合うことを可能にする『せたそらルール』をスタッフで話し合い作成して実践。

取組

- 地域の障害者施設に農産物の加工や軽作業を発注し、施設利用者の工賃向上と発注先の拡大を実現しており、取組の輪の拡大に寄与。
- 地域の障害者施設等を対象にした農作業体験や、年2回の一般の方々に農園を開放する「オープンファーム」を開催し、地域内外との交流を図る。

未来を耕す

- 電通グループの農福連携は、自社の雇用には留まらず、地域全体の障害者の経済的安定や生きがい向上を目指すものであり、これから農福連携に取り組む企業にとって模範となる取組を目指す。
- 規格外野菜を飼料として提供し、そこで発生した馬糞を肥料として活用するなど、環境に配慮した持続可能な農業を実践。

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	体験会等参加数
19万円(R5) →20万円(R6)	5人(R5) →9人(R6)	1.2万円(R4) →65万円(R6)	220人(R4) →350人(R6)

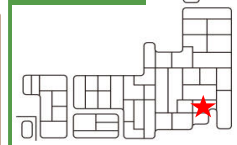
成果

- 自社の雇用には留まらず、育てた農産物を地域で販売し、地域の障害理解を促進するとともに、地域の障害者施設に仕事を発注することで経済的安定と生きがいの向上を地域全体に行き渡らせるスキームを構築。
- 区が買い取った荒廃農地を借りて農園を運営。伝統野菜「大蔵大根」の栽培や切干大根への加工、地域産野菜の納品を通じて、地域農業の維持・発展と農地保全に貢献。
- 地域の社会福祉協議会と連携し、ひきこもり支援団体や子ども食堂への農産物提供などを通じて、持続可能な地域共生社会と多様性のある地域づくりに貢献。

区が「すぎのこ農園」を開園し、障害者就労施設等に貸し出すほか、収穫体験イベントやマルシェの実施などを通して、障害者・高齢者等の生きがい創出・健康増進の機会の提供や、即売会や子ども食堂などの定期開催。

地方自治体

東京都
杉並区



H31年 区は都市農地の多面的機能を発揮する取組として、農福連携事業に関する調査・研究に取り組み、令和3年4月に「すぎのこ農園」を全面開園。

きっかけ

H31年

人を耕す

- すぎのこ農園では区画を多目的農園区画、団体農園区画に分けており、多目的農園区画では、福祉施設等への食材提供による運営支援や区民への収穫体験を行い、団体農園区画では、障害者就労施設や保育園等に区画を貸し出し、健康増進や自然体験に活用。
- 障害者就労施設と受託事業者が日々情報共有を行い、一人ひとりの能力や適性に応じた作業を割り振ることで、無理のない形で障害者が力を発揮できる環境を創出。

地域を耕す

- 収穫体験イベントでは、地域住民や団体農園区画を利用していない障害者が農作業に参加し、農への理解と地産地消の推進に寄与。
- 毎月の「すぎのこマルシェ」では、区内農家や障害者施設が生産した農産物や製品を販売し、交流を通じて都市農地の役割や福祉活動への理解を促進。

未来を耕す

- 団体農園区画利用施設との意見交換会を定期的に行うことで、各施設の要望や成果を共有。その中から、来園が困難な利用者向けに苗をプランターで提供する試みが生まれ、施設内でも農を体験できる仕組みを実現。
- 子ども食堂への旬の野菜の提供により、子どもの食育と地域福祉の充実に直結し、都市農地の多面的機能を区民に発信することに寄与。

取組

成果

基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:H31年

概要

主力商品
(農作物)野菜、果樹

特徴的な取組
ユニバーサル農園

体制図

設置者:杉並区
管理運営委託先:東京中央農業協同組合

住所:杉並区上荻1丁目2番1号 Daiwa荻窪タワー2階
TEL: 03-5347-9136
Mail: nougyo-k@city.suginami.lg.jp
URL:https://www.city.suginami.tokyo.jp/s033/shisetsu/14965.html

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

収穫物の提供

91回(R2)
→250回(R6)

収穫物の提供先

16団体(R2)
→30団体(R6)

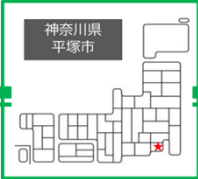
イベント

1回(R2)
→27回(R6)

農地面積

0.26ha(R2)
→0.26ha(R6)

- インターン等を通して、障害者就労施設の2名の利用者が東京中央農業協同組合のアルバイトとして就労し、農園運営を実施。
- 教育委員会と連携し、不登校やひきこもりの児童・生徒を対象とした農作業体験を実施し、自然体験や児童・生徒同士の協働を通じて、新たな学びの場を提供。
- 中学生の職場体験、高校生ボランティアの参画により、若い世代が農業や福祉を知るきっかけとなり、将来の人材育成に寄与。
- 防災兼用農業井戸等の整備や防災訓練を通じて、農園が災害時の地域拠点として機能する体制を構築。



6次産業化と農福連携を組み合わせることで障害者の工賃向上と新たな地域ブランドを確立。マルシェ・バザー等にも積極的に参加し、交流人口が拡大。

基本情報

- 所在地：神奈川県平塚市
- 団体名：社会福祉法人進和学園 しんわルネッサンス
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 チャレンジ賞
- 主力商品：農産物加工品
- 取得認証等：－



湘南とまと工房



植樹用苗の生産

取組の概要

- 1974(昭和49)年から自動車部品車の仕事を中心に事業を展開。社会情勢の変化にあわせて作業種の多角化を推進し、農産物加工、地元スーパーでの施設外就労にも注力。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立ち上げて、ジュース、ピューレ、ジャムを製造、販売。2021(令和3)年にHACCP認証を取得。
- 障害者本人の自立・工賃向上の一環として、どんぐりや木の実から植樹用のポット苗を栽培し苗木を各所での森林再生や緑化活動に広く活用。



加工用トマトの下処理

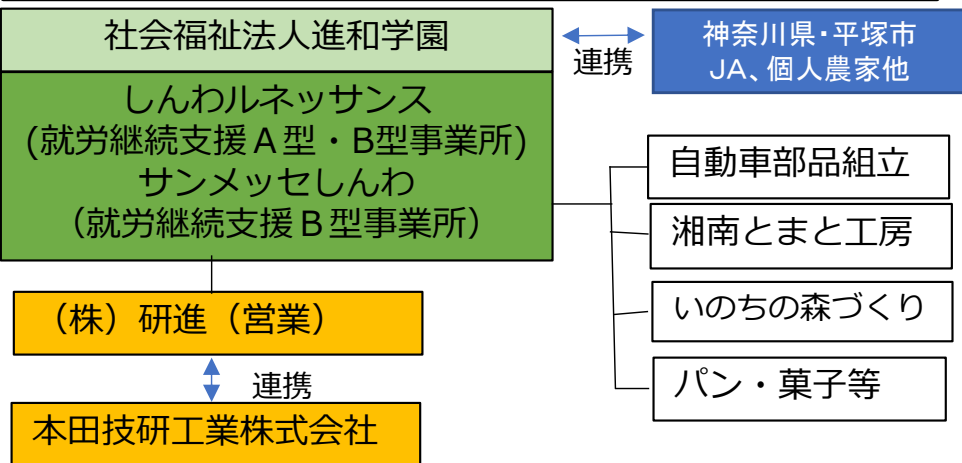


加工商品のパッキング



加工の様子

体制図



取組の成果

- 受託加工：取組当初(平成23年)の150万円から2,100万円(令和4年)に拡大。
- 障害者雇用・就労：取組当初の8人から20人(令和4年)に拡大。
- 波及的な成果：6次化によりJA及び個人農業者の取引先が60か所、連携する農家等からのトマトの取扱量は年間約15トンと地域農業の発展に貢献。

所在地▶〒259-1204 神奈川県平塚市上吉沢1520-1
 連絡先▶TEL:0463-58-5414 E-mail:rune-selp@shinwa-gakuen.or.jp
 ウェブサイト▶http://www.shinwa-gakuen.or.jp/

【取組のプロセス】

円高の影響による
国産部品輸出の減少、
海外サプライヤーからの
部品調達増加

平成23年

きっかけ

自動車部品の組立作業を受注してきたが、社会情勢の変化により受注が落ち込み、事業の多角化を決意。障害者への「良質な仕事の提供」と農業者と連携する事での地域貢献を目指した農産品加工を開始



湘南とまと工房

規格外農産物の有効活用

平成25年

6次産業化総合化事業計画の認定、農産物加工施設を整備

- 地域で生産された規格外のトマトやみかん・自前の農園で栽培するブルーベリーを活用して、ジュースやジャムを製造することで障害者の雇用・就労機会を創出。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立ち上げ、生産・販売を開始。
- 摘果されたみかんを使用した「湘南みかんパン」が第4回全国逸品セレクションで準グランプリを受賞（平成27年）。



湘南みかんパン

6次産業化交付金による加工施設の整備

平成30年

さらなる販路拡大に向けてインターネット販売を開始

- (株)研進と連携し、インターネット販売（楽天市場等）を開始。
- 地元平塚の「湘南ひらつか名産品」に認定される。また、平塚市のふるさと納税の返礼品としても活用。

令和3年

品質維持・向上を図るためHACCP認証を取得

- 食品衛生管理に関する勉強会等に積極的に参加。
- 製造量及び加工品目拡大のため、蒸気ボイラーを導入し、新たに設備を整備。



HACCP認証取得

令和5年

第64回全国推奨観光土産品審査会にて「農林水産大臣賞」受賞

- 日本商工会議所及び全国観光土産品連盟主催の審査会にて「農林水産大臣賞」を受賞し、取組や商品のアピールに繋がった。



集合写真

今後の展望

地域社会の支援、本人の勇気、職員の努力と熱意、ボランティアの協力、家族の団結、行政の応援といったチームワークを推進

- ネットワークの交流が拡大し、平塚市・飲食業者・農協・漁協とのコラボ商品といった地域の魅力を高める商品を開発。
- 加工品としてレトルト商品を開発し、さらなる販売強化、インターネットを活用した販路拡大を実践。

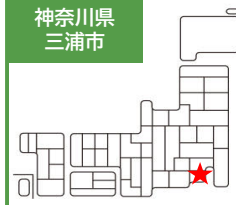


農林水産大臣賞
受賞

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。より多様な人材が活躍できる環境が整備され、現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。

農林水産業経営体

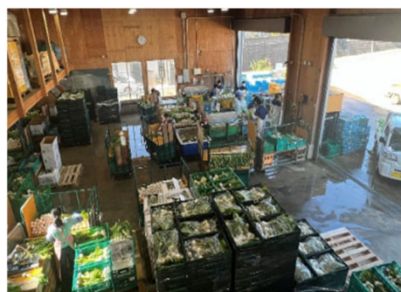
神奈川県
三浦市



きっかけ

R2年

高齢化に伴う経営方針転換を考えた時期に特例子会社との縁があり、障害者社員の一途な働き方に感動し、企業と共同で人材育成を行い始めたことがきっかけ。



基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:H30年

取得認証等:認定農業者(R4年)、みどり認定(R6年)

主な選定表彰:第53回日本農業賞(個人経営)神奈川県代表

人を耕す

- 作業工程を巧緻性と最多注意配分数を両輪とした難易度評価により階層的に分けており、現在の工程ができるようになったら次の難易度の工程にステップアップするルールを採用。
- 出荷調整所をユニバーサルデザイン化し、合理的配慮された休憩所やトイレも増築。交代制で休憩がとれるルールを徹底。

取組

地域を耕す

- 特例子会社の障害者社員の成長とともに事業も拡大し、収益性並びに生産性が向上。
- 地域の農業技術や野菜を継承し、農福連携で三浦カブを始めとした三浦野菜を栽培することにより地域農林水産業の維持・発展に貢献。
- 若手地域農家の経営的な相談に乗り農福連携に取り組む各援農先の持続可能性向上に貢献。

未来を耕す

- 出荷調整所に数量カウントセンサーやオートメーションシステム等のスマート農業を導入。
- 荷調整作業で、日々大量に出てしまうカブの残渣を活かした循環農法を企業と共同研究開発。
- AI 搭載のプロジェクトマッピングを導入し、カブの選別作業の難易度を下げることに成功。
- 休憩室に必要な農具を揃えておくことで、特例子会社の社員がほ場に直行直帰できる体制を整備し、障害者の自立を支援。

概要

主力商品

(農作物)三浦かぶ、スイカ、かぼちゃ等

特徴的な取組

スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

パーソルダイバース株式会社
よこすか・みうら岬工房

→株式会社PEEKABOO

(企業参入型ノウフク援農モデル)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

成果

作業請負年間支払額

320万円(R2)
→650万円(R6)

障害者数

9人(R2)
→17人(R6)

農業売上高

5,700万円(R2)
→7,300万円(R6)

農地面積

1.8ha(R2)
→4.0ha(R6)

- 3年かけて弊社の下葉処理作業を習得し、6年目の現在は農家と変わらぬ精度と効率で作業ができるようになった。
- 企業の障害者社員が母校で講演を行い、農業の魅力を特別支援学校の後輩に広めている。
- 生産性の向上に伴い、賃金も向上。
- 障害者も安全に安心して働ける環境が整い、より多様な人材が活躍できる場になったことで、障害者と外国人労働者が同じ現場で働くことができるようになった。

住所:神奈川県三浦市南下浦町菊名25-3

TEL:046-888-0875

Mail:info@miurakabu.com

URL:https://peekaboo-miura.com/

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可
特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等):可

手間のかかるひじきのごみ取り作業を福祉事業所が請け負うことで、漁業者の負担軽減と福祉事業所の日々の活動の充実を実現。



基本情報

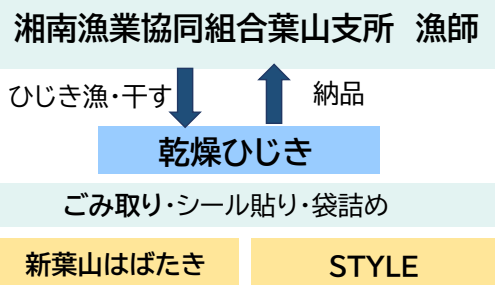
新葉山はばたき 設立:H6年/水福連携取組開始:R5年
 STYLE 設立:R3年/水福連携取組開始:R6年

概要

主力商品
 (水産加工品)乾燥ひじき

特徴的な取組
 新葉山はばたき:細かな作業が得意。
 STYLE:施設外、施設内就労に対応できる。

体制図



湘南の風 新葉山はばたき 住所:神奈川県三浦郡 葉山町堀内1363-1 TEL:046-854-4110
 SY' Style(株) STYLE 住所:神奈川県三浦郡 葉山町堀内626-6 TEL:046-876-1195

受け入れている者	
身体障害	✓
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	✓
知的障害	✓
その他障害	✓
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

※その他障害については、新葉山はばたきの実績

きっかけ

R5年

神奈川県で水福連携の推進事業を実施する中で、葉山町漁協(現・湘南漁協葉山支所)からひじき細かいごみ取り作業が大変なので人手があると助かるとの話が寄せられ、開始。

取組

人を耕す

- 施設内でできる作業であるため、外出が難しい障害者でも作業に参加でき、日々の活動の充実につながっている。
- 福祉事業所のスタッフが作業の準備をする前に施設利用者(障害者)が率先して準備し作業を始めるなど、意欲的、主体的な取組が行われている。

地域を耕す

- これまで漁師が天気の悪い日や夜間など、仕事の合間に行っていた作業を障害者に担ってもらうことで、漁業者の負担軽減につながっている。また、漁業者がより生産的な作業に従事できるようになり、地域の漁業活性化につながっている。
- 海の作業に福祉事業所や障害者が興味を持つことで、地域の交流や活性化に寄与している。

未来を耕す

- 水産業と福祉の特性を活かした持続可能な体制づくりについて、関係者が話し合うなど、地域で考える契機となっている。
- 水産業と福祉がつながることで、障害者と共生できる地域社会の実現につながっている。

成果

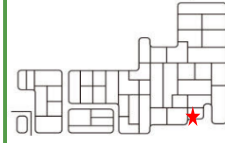
就労延べ人数	就労実人数	延べ日数	—
0人(R5当初) →150人(R5・6計)	0人(R5当初) →16人(R5・6計)	0日(R5当初) →145日(R5・6計)	

- 成果物の品質については、漁業者が行うレベルと遜色ないとの評価をいただいている。また、作業を繰り返す中で作業スピードも向上している。
- 本事例をモデルケースとして、県内の他の地域でもひじきのごみ取り作業の水福連携が生まれている。
- 他の自治体等からの視察を受け入れることで、県の枠を超え、他県での取組の参考としても役割を果たしている。

市場に出ない鯖(サバ)と規格外品のトマトを活用したレトルトカレー(トマ鯖カレー)の生産過程で、福祉事業所が箱の組立てと箱詰め作業を請け負い、工賃向上と社会貢献を実現。

福祉事業所

神奈川県
平塚市



基本情報

設立: グランズ平塚 R4年度、クオケア R5年度
水福連携取組開始: 双方ともR5年度
トマ鯖カレー取組: 双方ともR7年度

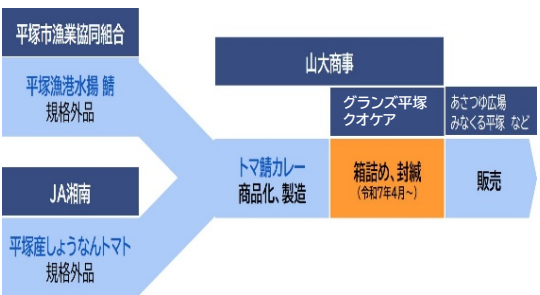
概要

主力商品
(水産加工品)トマ鯖カレー

特徴的な取組

グランズ平塚: 施設外就労に積極的、農福連携
クオケア: 手先を使った細かい作業が得意

体制図



(株)浦川屋 グランズ平塚 住所: 神奈川県平塚市明石町9-2 TEL: 0463-20-9238
ビースマート(株)クオケア 住所: 神奈川県平塚市明石町21-6 TEL: 0463-74-4836

きっかけ

R5年

平塚市漁協の紹介で魚市場と福祉事業所との間で水福連携(魚の袋詰め、トレーの洗浄等)が成立したことを踏まえ、新商品のトマ鯖カレーでも連携できないかが検討された。

人を耕す

- シール貼り等の単純作業から始めたが、作業品質を認められ、外観品質が厳しい化粧外箱の組立てまで任せられ、「箱作りはプロレベル」と言われるまでになった。
- 加工事業者(山大商事株式会社)側は福祉事業所の作業の進捗に配慮し、福祉事業所側は加工事業者からの急な受注増にも対応するなど、当事者が相互に助け合う関係性になっている。
- 付帯作業(不要シールはがしや廃棄処分)の正確さも認められ、工賃アップにつながった。

取組

地域を耕す

- トマ鯖カレーの生産販売への関与を通じた地域貢献。
- 市場に出ない水産物や規格外の農産物を活用することで、食材ロスの解消や地産地消、生産者の収益向上を促進。
- 加工事業者の高齢化に伴う人手不足を補うことで生産性改善につながった。

未来を耕す

- トマ鯖カレーについてはR7年4月にイベントを開き、新聞等に記事掲載。
- 水産業、農業、加工業と福祉事業が各々の特性を活かした連携商品のモデルを実現。
- 水産加工業においても水福連携が課題解決の一つの解となることが示された。

就労延べ人数

0人(R7当初)
→451人(R7.4~11
累計)

就労実人数

0人(R7当初)
→48人(R7.4~11
累計)

延べ日数

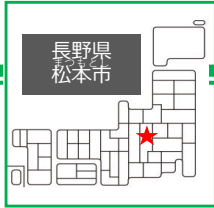
0日(R7当初)
→140日(R7.4~11
累計)

成果

- 今まで加工事業者の従業員が合間に行っていた作業を福祉事業所に任せることで、従業員の作業の効率化や勤務時間の短縮につながった。
- 加工事業者からは、健常者の社員よりも集中して働いてくれて、できる人はスピードも速いため、業務効率の改善につながっているとの評価を得ている。
- 連携先の加工事業者で水福連携や障害者への理解が深まり、同社において障害者の採用が進展。

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	✓
知的障害	✓
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	



農業者と障害福祉サービス事業所との「マッチング事業」を実施し、作業内容をメニュー化し請負報酬を明らかにすることで農業者と障害福祉サービス事業所双方の不安を軽減。農産物集出荷施設では、作業の安全性に配慮した農福レーンを設置し、果実の箱詰作業を効率的に請負。

基本情報

- 所在地：長野県松本市
- 団体名：松本ハイランド農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020 審査員特別賞
- 主力商品：野菜（レタス、キャベツ、白菜、トマト、すいか等）、果樹（りんご、ぶどう、なし、桃等）きのこ、米、大豆、麦、そば、花卉ほか
- 取得認証等：－



トマトジュースやケチャップの材料となる加工用トマト

取組の概要

- 組合員は、依頼したい作業内容をJAに申し込み、JA本所を介して、福祉事業所に仕事を依頼。農作業の請負契約は、JAがサポートを行い組合員と障害福祉サービス事業所が直接締結。
- JAは、作業内容をあらかじめメニュー化することで、福祉事業所の不安を軽減。メニュー化した作業は、時給制でなく、作業内容・作業量に応じた出来高制とし、作業の報酬単価を明確化。作業単価については、毎年、事業者や県の担当者などの関係者を集めた会議を開催し改定。
- 農産物直売所において「農福マルシェ」を開催し、農家だけではなく地域住民や観光客へPRを定期的実施。



加工用トマトの収穫作業

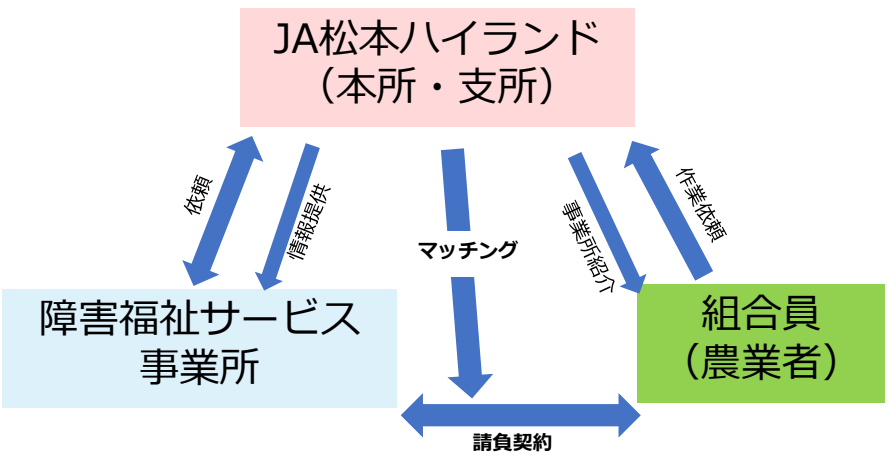


トマト収穫作業の福祉事業者向け事前説明会



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農家の長時間労働の解消や、スポット的な作業についても労働力の確保が容易になり、経営面積の維持・拡大、荒廃農地の発生防止に貢献。
- 請負作業増加に伴い工賃が向上。
- 農作業行程を分割して、誰でも行いやすい部分を福祉事業所に委託することにより、組合員は、単発的に労働力を必要とする際に労働力を確保できるとともに、自分しかできない作業に集中することで、生産性が向上。
- 農家と障害者地域住民等との交流により地域の支え合い意識が成熟。

所在地 ▶ 〒390-8555 長野県松本市南松本1-2-16
 連絡先 ▶ TEL:0263-29-0394 E-mail:nokikaku@mhl.nn-ja.or.jp
 ウェブサイト ▶ <https://www.ja-m.iijan.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成29年

高齢化や人口減少などの影響で農業労働力が不足
荒廃農地の拡大
地域活力の低下

きっかけ

ねぎの畝間等の除草作業を知人や友人に頼んでいたが高齢化等により作業者が減少、福祉事業所の利用者が働く場を求めていたことから無料職業紹介事業に基づくモデル事業を開始

JA青年部による農福連携モデル事業がスタート

- 平成29年7月から、農業の労働力不足を解消し、産地の維持・耕作面積の拡大・農業の活性化につなげるため、農協青年部の取組として、地域住民と連携した多角的な労働力の確保のためのモデル事業を開始。
- 18農家と8事業所を結びつけ、延べ323人の障害者が農作業に従事。

平成30年

長野県の農業就労チャレンジ事業を受託。

JA松本ハイランドの事業として、支所に窓口を設置

- 平成30年2月、組合員を対象とした説明会を開催し事業をスタート。各支所に農福連携の窓口を設置して、本格的な事業として農家からの相談を受け付け。長野県セルフセンター協議会と連携しながらマッチングを開始。
- マッチング数は、30農家、8事業所で、延べ1,041人。

平成31年

長野県の事業を受託し、農福連携の推進に貢献

- 平成31年4月、長野県の「農業就労チャレンジ事業」を受託し、長野県全体への農福連携推進に貢献。
- マッチング数は、32農家、11事業所で、延べ1,161人と増加。

令和3年

事業スタートから5年。年々増加する農家からの作業依頼に、事業所の確保が課題に

JAの施設就労で拡大した農福連携の取組

- JAが管理運営する果実共選施設の改修に合わせて、障害者が作業を行う専用レーンを新設し、障害者の就労機会の増加を図る
- マッチング数は、34農家、14事業所で、延べ1,483人と増加。

令和4年

JA施設での作業をステップに、事業所が農福連携に取り組みやすい仕組みづくり

- JA施設での就労を通じて、事業所が農業に親しみ、農家での作業に出向ける体制づくりのステップとして、果実共選所での新規事業所受け入れを実施
- マッチング数は、46農家、15事業所で、延べ1,718人に増加。

今後の展望

アプリを活用して、農福連携に取り組みたい障害福祉サービス事業所からも「こんな作業ができます！」を農家へ発信

- 長野県労働力支援センターとデイワークで開発を進める農福連携アプリを活用し、農家と障害福祉サービス事業所との相互でのマッチング体制の推進に取り組みます！



農家が福祉事業所へ作業の流れを説明



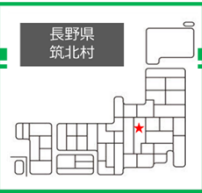
農福連携説明会を開催



「農業就労事業チャレンジ事業」
農業サポーターによる作業支援



作業風景



農業、林業、人、エネルギーを連携させて環境を整え、より効率的かつ持続的な資源の活用を目指すとともに、福祉機関や教育機関との協力体制を築いて、地域全体の「輪」を強化する活動を行う。
地域の魅力と雇用を掘り起こし、誰もが自身の地域に愛着と誇りを持ち、自分の力を発揮できる暮らしやすい社会をつくる。

基本情報

- 所在地：長野県東筑摩郡筑北村
- 団体名：特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 フレッシュ賞
- 主力商品：薪、古代麦など
- 取得認証等：－



登山道整備



有機栽培のんにく



古代麦の栽培

取組の概要

- SDGsに配慮し山林を整備。ナラ・クヌギ・桜・アカシアなどの広葉樹を薪として販売するとともに製材、精油、フィールドワーク利用等で里山の100%利活用を目指す。
- 地域の間伐材を燃料とした温泉施設の薪ボイラーの運用を通じ、域内のエネルギー循環を実現（年間6万灯油削減）、同時に様々な人の雇用をつくりだす。
- 数千年以上前から栽培されるパン小麦の原種にあたる古代麦を生産（英名スペルト、約1.5ha）、その他、桜花木や有機野菜生産を行うとともに地域の農作業、草刈り、公園管理などの請負業務を行う。
- 草刈機、チェーンソーの講習会、倒木の伐採処理、作業道整備、ロープクライミングなどの技術研修を定期的で開催する。



草刈作業の代行



森林管理



薪製造

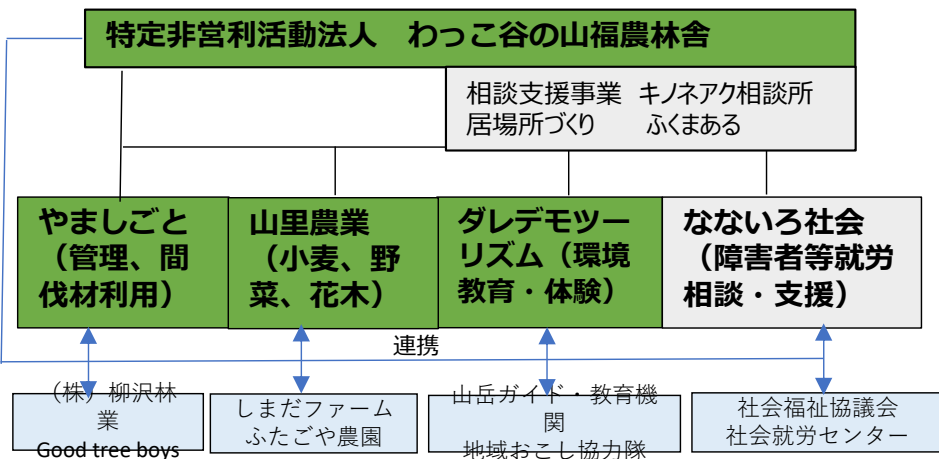


製材



精油

体制図



取組の成果

農地面積：設立当初（平成28年）の0.1haから2.5ha（令和5年）に拡大。農作物はすべて有機栽培。
伐採件数：設立当初の2件から47件（令和5年）に増加。
ほ場管理：設立当初の14件から191件（令和5年）に急増。農繁期（4月から9月）は農業、農閑期（10月から3月）は林業（松枯れ危険木の伐採）を中心に業務を組立。
障害者就労：設立当初の4人から21人（令和5年）に増加。

所在地 ▶ 〒399-7501 長野県東筑摩郡筑北村西条3846
連絡先 ▶ TEL / FAX : 0263-66-3035 E-mail: info@yamafuku.org
ウェブサイト ▶ <https://www.yamafuku.org>

【取組のプロセス】

平成28年

荒廃農地の増加
林業事業者の減少
高齢化の進行
地域活力の低下
障害者等就労場所の確保

きっかけ

前身である筑北村社会福祉協議会が「農×林×福×教×αプロジェクト」により、地域の困りごとを解決する農林業代行サービスを開始。

推進母体設立のための村民ワークショップを実施

- 荒廃農地、土砂災害、松枯れ被害が拡大。後継者や林業事業者がいないため、自然資源の荒廃が進行。
 - 障害者、ひきこもりの状態にある者、生活困窮者、移住者、高齢者の就業場所が不足。
- ⇒上記の課題解決のため、村民ワークショップ、講演会、啓発活動を行い、法人母体設立の準備を進めるとともに、古代麦生産と林業事業の拡大を計画。



伐木造材特別教育

平成29年

令和元年

独立運営となり、業務量が拡大、収入が増加

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎を設立

- 独立運営を開始、農林業の請負業務が増加。
- 教育機関（中学/大学）との連携事業を開始。
- 理事は、社会福祉士、林業会社代表取締役、農園代表、山岳ガイド、大学教授で構成し、会員数83名（令和5年度）。



近隣大学とのフィールドワーク

令和2年

就労継続支援B型事業所のほか、相談支援や居場所づくり事業を開始、より地域の拠点となる活動を展開
令和6年度より就労継続支援A型事業所を開設

就労継続支援B型事業・認定就労訓練事業等を開始、業務を拡大

- 従来の作業に加え、林産物加工として製材事業、精油事業を開始し作業種を拡大。
- 村営温泉施設の木質バイオマスボイラーへの薪供給（年間約200トン）を行うため、間伐材を買取る「やまふく木の駅」を運営。域内のエネルギー循環を実現するとともに障害者、高齢者、移住者などの雇用を創出。



作業道開設

宝と宝がつながる未来、100年先も輝く世界へ

- 様々な人たちがゆるやかに横方向につながり、多様性を認め合い、地球のサイクルの中で生かされている感覚のもと、誰もが居場所や役割を持ち生活できる地域・社会をつくること。
- 「私もOK、あなたもOK、地域も社会も地球もOK」。人口約4,000人の中山間地の課題解決の取組が、一つのヒントとして全国に認知され、それぞれの地域の宝を活かした地域づくりや環境づくり、人づくりの「わっこ」（※信州弁で「輪」）を各地に拡げていくこと。



やまふく木の駅

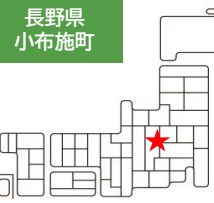
今後の展望



収穫補助

近隣廃業農家から譲渡された農地を活用し、水稻や野菜の栽培や、養鶏を行う。収穫祭や子ども食堂等での収穫物や加工品の販売・提供、農業体験を実施しており、地域に根差した活動を通じて地域農業の発展に寄与。

福祉事業所



基本情報

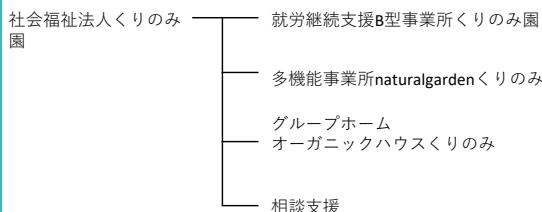
設立:H8年 / 農福連携取組開始:H22年
 取得認証等:認定農業者(H22)、6次産業化認定事業者(H25)
 有機JAS(R2)
 主な選定表彰:第10回フード・アクション・ニッポン アワード
 「おぶせのたまご」受賞(2018年度)等

概要

主力商品
 (農作物)たまご、米、野菜
 (加工品)スイーツ

特徴的な取組
 有機農業、自然循環型農業、6次産業化

体制図



住所:長野県上高井郡小布施町大字都住1238-2
 TEL:026-247-6330
 Mail: kurinomien@kurinomien.com
 URL:https://www.kurinomien.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

きっかけ

H22年

障害者の社会参加と自立を農業で実現することを目的として1996年小布施町に事業所を開設。その後、「地域農業の振興に貢献」を法人理念に加え活動を継続。

取組

人を耕す

- 農作業前に利用者の特性を考慮しながらその人に合った農作業を割り当て、責任感と意欲をもって作業ができるように工夫。
- 慣れない作業では一から丁寧に教えて作業を一緒に行うなど、機械を使う際には使用方法や安全面について十分指導。
- 利用者間で障害特性を理解して寄り添い合い、協力しながら農作業に取り組む環境を整備。

地域を耕す

- 機械操作に精通した利用者の圃場整備が近隣農家で評判となり、多数の近隣農家から圃場整備を受託。
- 農業公社から荒廃農地での耕作について打診を受けるなど地域の農地の管理・保護に貢献。
- 地域住民や他福祉事業所を招き収穫体験を定期的に行うことで、農業に触れる機会を創出。
- 直売所を設け、とれたての卵や野菜・スイーツ・加工品・鶏糞堆肥を販売しファンを獲得。

未来を耕す

- 自然循環型農業に取り組むほか、6次産業化の取組、伝統野菜の栽培も進めるなど、地域農業の維持に貢献。
- 生産から販売まで法人内で完結する仕組みや、有機JASの取得など、環境面にも配慮。
- アルコール依存症や引きこもりの状態にある者の受入れもしており、多様性のある地域づくりに貢献。

成果

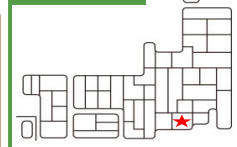
平均工賃月額	障害者数	農業の売上高	農地面積
24,198円(R2) →30,686円(R6)	29.2人(R2) →22.6人(R6)	3,473万円(R2) →4,048万円(R6)	7.3ha(R2) →7.0ha(R6)

- 平均工賃は県平均を大きく上回り、R6は30,686円。
- 養護学校の生徒など幅広い受け入れ態勢により、新たな施設利用者が増加。
- 施設利用者の技術向上により栽培規模が拡大したことで、野菜の収穫量の増加及び販路の拡大が実現。
- 法人内で働く利用者2名が正規職員に昇進。
- 機械操作に長けた利用者が委託作業として農家の作業を依頼されており、農業を通じた障害への理解が促進されている。

独自の出荷基準と糖度基準を設けた高糖度トマト『アメラトマト』として商品化。ブランド化により安定生産を実現し、直営農場で障害者3名を直接雇用するほか、福祉事業所と連携し農作業の委託を実施。

農林水産業経営体

静岡県
静岡市



きっかけ

H26年

福祉関係者からのアドバイスで、トマト栽培は周年作業で年間に同じ作業を繰り返し行うことから障害者が活躍できる環境があると知った。

人を耕す

- アメラトマトの生産農場と福祉サービス事業所との中間サポートを行うとともに、福祉事業所10法人に対して、作業の一部を委託し、知的障害、精神障害、身体障害(車いす)が農作業に取り組む。
- 雇用している障害者が着実にステップアップできるように、指導計画書を作成し指導している。

地域を耕す

- 直営福祉農場では、トマト栽培で発生した残渣をたい肥化し、幼稚園と連携した食育活動の実施や、特別支援学校からの職場実習の受け入れを行う。
- 特別支援学校の実習の受け入れや幼稚園との連携では、雇用している障害者もイベントの企画立案から実行まで関わっており、地域との連携が進んでいる。

未来を耕す

- 社内に福祉の農業部を立ち上げ、直営福祉農場を新設。障害者の直接雇用と福祉事業所への作業委託により農福連携によるアメラトマトの生産を行う。
- 連携している福祉事業所の利用者から自社雇用につながるなど、福祉事業は重要なパートナーとなっている。

取組

基本情報

設立:H17年 / 農福連携取組開始:H26年
 取得認証等:認定農業者(H28)、しずおか農林水産物認証
 主な選定表彰:日本農業賞特別賞(2012年)
 イノベーションアワード金賞(2022年)

概要

主力商品
(農作物)アメラトマト

特徴的な取組
スマート農業

体制図

株式会社サンファーマーズ

直営福祉農場
アメラ選果場

福祉サービス事業所
との業務連携2社

アメラトマト生産農場
(静岡県11箇所、長野県3箇所)

福祉サービス事業所
との業務連携8社

住所:静岡県静岡市駿河区小黒2丁目5-1

TEL:054-282-2756

Mail:yamazaki@amela.jp

URL:https://www.amela.jp

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

障害者雇用数

3人(R2)
→5人(R6)

連携福祉事業所数

10事業所(R2)
→9事業所(R6)

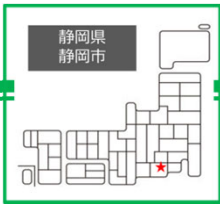
連携農場数

4農場(R2)
→7農場(R6)

委託金額

720万円(R2)
→1,400万円(R6)

- 平成28年から障害者雇用を始め、知的障害者4名を雇用。一般の従業員と同じ賃金で雇用し、社会保険にも加入。
- 特別支援学校や福祉サービス事業所から、これまでに21回の実習を受け入れ、実習から雇用につなげた。
- 車いすの方でも活躍する場を創出。
- 福祉事業所10法人に対して、農場の作業の一部を委託しており、令和6年度には100名の利用者が農作業を実施。



障害を持つ利用者が通年でしいたけの菌床栽培や茶、野菜の栽培を実施するほか、施設外就労で茶農家、近隣農家の農業支援に従事。

基本情報

- 所在地：静岡県静岡市葵区
- 団体名：株式会社よしもと
- 選定表彰：—
- 主力商品：製茶、しいたけ栽培、野菜栽培、周辺農家への施設外就労
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



静岡茶発祥の地 足久保茶園の管理

取組の概要

- 就労継続支援 A 型事業所を運営し、知的障害者や精神障害者を中心に15名が主に菌床椎茸栽培に従事。
- 地域の高齢農家等から、茶園290a及び畑30aを借り受け、自ら環境に配慮した農産物の生産を行っているほか、茶農家等から農作業の請負を実施。
- 株式会社よしもとが運営する A 型事業所、足久保ティーワークス茶農協と連携し、茶農協が運営する茶園の 1 割程度を障害者が管理。
- 障害者の地域との交流を促進するため、しいたけの作業所を利用し、生産したしいたけや農産物の直売を実施。



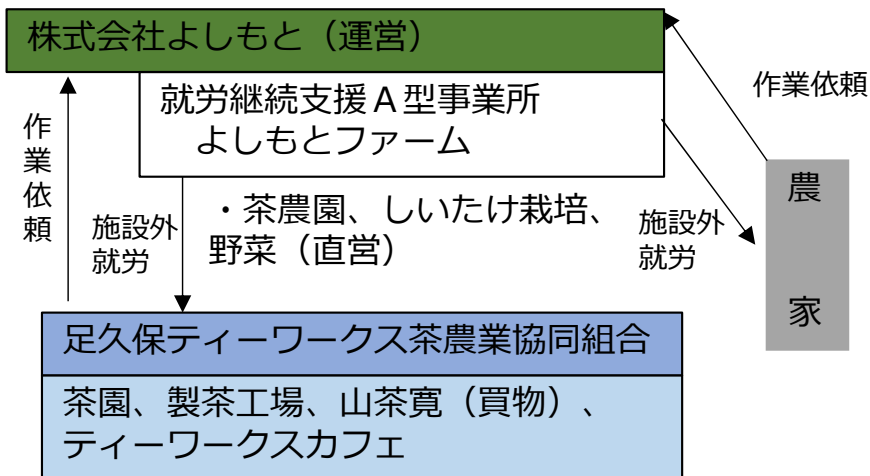
高齢農家への農作業支援



ノウフクJAS認証のしいたけ



体制図



取組の成果

- 積極的に施設外就労へ取り組むとともに、自らも農地を借り受け規模を拡大し、令和元年には認定農業となる。
- 請負先の農家においても、環境へ配慮した農業への意識が高まり、エコファーマーなどの認定が増加。
- 農作業へ従事することにより、障害者の生活リズムや食生活が改善。また、地域での信頼を得ることで、障害者自身が地域で暮らしていけるとの自信を得ている。

所在地 ▶ 〒421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組71-1
 連絡先 ▶ TEL:054-296-9510 E-mail:yoshimoto@wind.ocn.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <https://yoshimotofarmagata.wixsite.com/kinoko>

【取組のプロセス】

菌床しいたけの通年栽培をきっかけに、福祉事業へ本格参入

平成25年

きっかけ

農閑期の作業として行っていた椎茸栽培を通年で栽培する際、労働力の確保が困難であった

平成26年

就労継続支援 A 型事業所を開設

- 平成26年に、就労継続支援 A 型事業所「よしもとファーム」を開設。障害者が菌床しいたけ栽培に従事。

地域の主産業である茶栽培が人手不足に悩んでいた。

平成26年

施設外就労の開始（茶栽培）

- 平成26年から、高齢化により人材不足に悩んでいた地域の茶農家から作業を請け負い、施設外就労を開始。

請負面積：50a 障害者：13名

平成27年

農産物の生産についても、地域の農家から請負の要望が多くなった。

野菜農家からの作業依頼の受け入れ開始

- 平成27年から、茶以外の農産物についても、施設外就労での作業請負を開始。

請負面積：150a 障害者：13名

令和2年

ノウフクJAS認証取得

- 令和2年、しいたけ、茶（生葉）、だいこん、にんじん、ごぼう、ブロッコリーでノウフクJAS認証を取得。

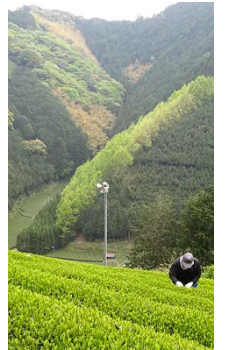
今後の展望

農福連携の広がりを推進

- 静岡茶発祥の地（足久保茶）を後世に繋げるべく地域の茶工場とともに茶生産に取組、製品としてのお茶ノウフクJAS認証の取得を目指す。
- 農業従事者の高齢化や担い手の減少、障害者の働き場所の確保といった課題解決に繋がるほか、他の農業者が農福連携に取組やすい環境を醸成。



菌床しいたけ



茶畑での作業



畑での作業

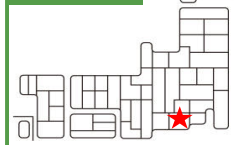


出荷作業

障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。

福祉事業所

静岡県
御殿場市



きっかけ

H9年

開所当初から農業に取り組んできたが、H24年から天候に左右されず、障害者に毎日同じ作業環境を用意できる水耕栽培を導入。

人を耕す

- 58名の利用者のほとんどが農業に従事し、H24年から水耕栽培を導入。
- 水耕栽培により安定出荷を実現し、毎日600~1,000株を地域のスーパーに出荷。
- 利用者数は倍増し、すべての作業ができる利用者(エキスパート)を育成して職員不在時の作業を確保。3名は一般企業に就労。

地域を耕す

- 水耕栽培ではリーフレタスを中心に、R5年には第2農場を設立し、サンチュやルッコラなどを通年で栽培。地域イベントや食育活動にも参加。
- 担い手が高齢化した茶畑の管理を請け負い、障害者が作業を行い、茶葉を販売して工賃向上を目指す。新たに粉茶やクッキーも開発。
- 農福連携を開始以来、静岡県内で福祉モデルとして多くの講演を行う。

未来を耕す

- 商品の品質向上に向けて、消費者目線を重視し、商品規格やパッケージングについての研修を実施。
- 御殿場市内の学校給食センターにリーフレタスを納品。

基本情報

設立:H18年/農福連携取組開始:H9年

取得認証等:しずおか農林水産物認証

取組

概要

主力商品

(農作物)リーフレタス、サンチュ、ルッコラ 等
(加工品)粉茶、クッキー、食パン、濃厚茶みつ、
レタスふりかけ

体制図

社会福祉法人 ステップ・ワン

ゆめ農

連携

NPO法人
オールしずおかベストコミュニティ

販売

イオングループ マックスバリュ東海

成果

平均工賃月額	障害者数	農業売上	農地面積
8,000円(H9) →60,000円(R5)	15人(H9) →40人(R5)	6,000千円(H9) →19,438千円(R5)	0.03ha(H9) →2.5ha(R5)

- 地域のお祭りや農福マルシェ、市役所マルシェ等に積極的に参加。近隣の幼稚園とは夏野菜の苗を「お買い物ごっこ」形式で販売し、食育を促進。
- 毎日同じ作業ができる環境(水耕栽培)を整備することで、生産性が向上。
- 茶葉を粉末にした6次化商品などを開発・販売。

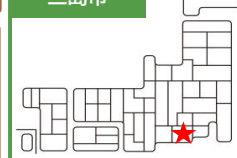
TEL:0550-82-0980 Mail:Step.one813gogo@gmail.com

<https://gotemba-stepone.jimdofree.com/>

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。

福祉事業所

静岡県
三島市

きっかけ

H25年

農家から「人手不足で農業を手伝ってほしい」との相談があり、施設外就労として手伝いをしたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程の効率化や販売力の高い野菜等で収益性を確保し、月額平均工賃3万円を達成。
- 地元スーパー等での対面販売など、利用者が生産から販売まで一貫して関わることで、責任感と意欲を向上。
- 利用者の能力に応じて役割設定し、リーダーとしてのステップアップも推進。
- 言葉の壁や障害特性を乗り越えるため、視覚的な作業手順書を導入。

地域を耕す

- 荒廃農地を活用し、近隣農家からの協力も得ながら、季節野菜や地元の伝統野菜を栽培して地域農業の維持・発展に貢献。
- JAや商工会、地元企業や行政など異業種と連携し、地域全体での農福連携推進体制を構築。
- 自社栽培の野菜などを使った Nijikake Café(にじかけカフェ)を運営し、利用者が接客や販売を担当することで地域との直接的な交流を推進。

未来を耕す

- 「農福連携を地域と未来の希望につなげる」ことを掲げ、持続可能な取組を展開。
- 収穫野菜を使用した無添加加工品の開発や、直売所・イベントでの販売活動など、6次産業化も推進。
- 小中学校生徒を対象とした農業体験や職場見学受け入れなど、若い世代に福祉や多様性の理解拡大を促す活動をしており、未来の担い手づくりにも貢献。

基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H25年

取組

概要

主力商品

(農作物)さつまいも、にんじん、しいたけ等
(加工品)椎茸ドレッシング、松茸ポタージュ等

特徴的な取組

林福連携、6次産業化、スマート農業

体制図



住所:静岡県三島市北田町7番地の29

TEL:055-939-7526

Mail:ryotasuzuki.nijikake@outlook.jp

URL:https://nijinokakehashi.org/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

成果

平均工賃月額

22,350円(R2)
→30,052円(R6)

農業に携わる障害者数

30人(R2)
→75人(R6)

農作物等売上高

310万円(R2)
→404万円(R6)

農地面積

5.45a(R2)
→7.45a(R6)

- 障害者だけでなく、高齢者、外国人、ひきこもり経験のある若者、子育て中の主婦など多様な人々が関わり共に働く場を創出し、誰もが自分らしく働ける職場づくりを推進。
- 農作業で培った勤労習慣や体力、コミュニケーション能力を評価され、3名の利用者が食品加工会社や地元スーパーなどへ就労。